

高等学校
授業評価ガイドライン
【Ⅱ】

～さらなる授業改善に向けて～

平成25年1月

大阪府教育委員会

目 次

はしがき	1
I はじめに	2
1 授業評価とは	2
2 生徒による授業評価の効果と必要性	2
3 組織的な取組と課題の把握・目標の設定	3
4 年間計画の策定	4
5 評価軸について	6
II 生徒による授業アンケートの実施	7
1 実施回数と実施時期	7
2 実施方法	8
3 授業アンケートの質問項目	9
4 全校・全教員共通の質問項目について	10
5 「授業アンケート分析システム」について	11
6 評価結果を授業改善につなげる取組	14
7 評価結果及び改善方策の公表	16
III 研究授業・授業見学や公開授業の取組の充実	17
1 研究授業の実施	18
2 授業見学の実施	19
3 公開授業の実施	19
VI 府立高等学校「パッケージ研修支援」の取組	21
1 みどり清朋高校の取組	25
2 岬高校の取組	27
3 緑風冠高校の取組	29
4 三島高校の取組	31
5 久米田高校の取組	33
6 富田林高校の取組	35
7 教育センター附属高校における授業アンケートの活用の在り方	37
V 平成23年度授業公開、授業アンケートに係る実施状況調査結果概要	39
VI 授業評価実施に関するQ&A	40
VII おわりに	43

はしがき

「授業は学校の教育活動の中心をなすものである。学校生活の大半を授業で過ごす生徒にとって、『魅力的な授業』『わかる授業』が多く実現できれば、学校生活もおのずと充実したものになる。」

「授業は、授業者（教員）と学習者（生徒）との相互作用によって成り立っている。よって、『魅力的な授業』『わかる授業』の実現には、まずは、授業者である教員自身が主体的に授業改善に取り組むことが前提となるが、同時に、学習者である生徒の視点から、授業や授業改善の取組を検証することも必要である。」

このような考えから、大阪府教育委員会では、すべての府立高校が生徒による授業アンケートを活用した授業改善に取り組むことができるよう、平成22年3月に「授業評価ガイドライン」を作成した。

この間の各学校の取組の進捗はめざましく、平成22年3月当時、78.4%（組織的实施率は40.7%）であった生徒による授業アンケート実施率はすでに100%になっている。加えて、多くの学校で、研究授業や授業公開を実施して、授業の質の向上に積極的に取り組むようになっていく。

こうした状況において、各学校での授業改善の取組を一層推進するために、具体的には、生徒による授業アンケートの組織的な実施の推進と、アンケート結果の授業改善への一層の活用をめざし、このたび、「授業評価ガイドライン【Ⅱ】」を策定することとした。

本ガイドラインでは、平成25年度から全校共通して、「生徒による授業アンケートを年2回実施すること」、「全校・全教員共通のアンケート項目を設定すること」などを明示するとともに、各学校における個々の取組の指針となるよう、授業アンケートによる改善課題の洗い出しから改善方策の策定及びその検証に至るまでの取組の流れを具体的に示している。また、大阪府教育センターが本年度から実施している「パッケージ研修支援」を活用して授業改善に取り組んでいる学校の実践事例も盛り込んでいる。

各学校においては、このガイドラインを参考として、授業の質の向上に組織的に取り組み、生徒にとって、より「魅力的な授業」「わかる授業」を実現するとともに、府民から信頼される魅力ある学校づくりに役立てていただきたい。

大阪府教育委員会 高等学校課

I はじめに

1 授業評価とは

授業評価とは、授業の質の向上により、生徒にとって「魅力的な授業」「わかる授業」を実現することを目的として、多様な観点から授業を検証する一連の取組のことをいう。

評価者としては授業者（教員）、学習者（生徒）、観察者（校長・准校長、同僚教員、保護者、学識、学校協議会委員等）が考えられる。

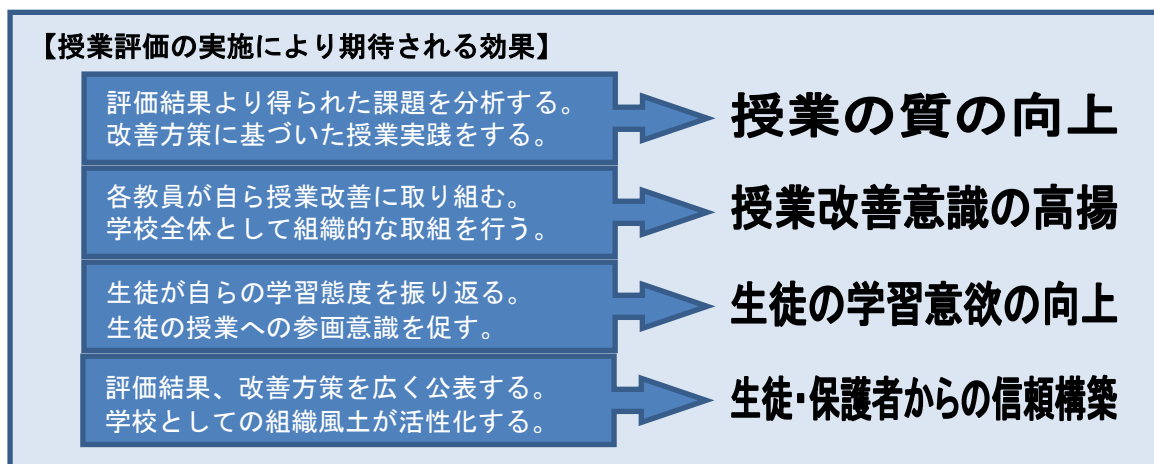
授業は、授業者（教員）と学習者（生徒）との相互作用によって成り立っている。そのため、授業改善に向けては、まず、当事者による検証が基本となる。

第一は授業者（教員）による検証である。「魅力的な授業」「わかる授業」を実現するためには、授業者である教員自身がめざすべき授業とは何かを考えつつ、旺盛な改善意識を持って日々授業改善に取り組むことが前提条件になる。

第二は学習者（生徒）による検証である。授業者による評価や取組が独りよがりにならないように、生徒が授業をどのように感じたか、その授業が生徒のどのような学習行動につながっているか等を授業アンケートにより把握し、魅力的な授業であったかどうかを、学習者としての生徒の側から客観的に検証することが必要である。

さらに、検証をより重層的に行うために、校長・准校長による授業観察や、同僚教員、保護者、学識、外部委員等、第三者が授業を評価する機会を積極的に取り入れることも重要である。

このように、授業評価とは、さまざまな観点、側面から授業を浮き彫りにする一連の取組である。なお、授業評価の実施により期待できる効果は以下のとおりである。



2 生徒による授業評価の効果と必要性

生徒による授業評価の効果と必要性は概ね次の3点に集約される。

第一は、前項に示したとおり、生徒による検証の重要性である。授業には、内容の難易度、進度や進め方、教材の活用方法のほか、授業に対する生徒の取組姿勢や理解度、学習環境等、多くの要素が関わっている。これらの中には、授業を受ける側の生徒でないと気づかない要素が多くあることは想像に難くない。したがって、授業改善を行うには、教員が生徒の立場に立って自らの授業を振り返り、改善のためのヒントを得ることが必須となる。

第二は、生徒自身が学び方を身に付けることへの期待感である。授業でのシーンを思い浮かべながら、アンケート項目の一つひとつ答えることは、そのまま、自身の授業への取組に対する自己評価になる。これまでの授業を客観的に振り返ることにより、学びを実感し、主体的に授業に取り組もうとする姿勢が生まれることが十分期待できる。

第三は、授業評価がコミュニケーションツールとして働くことへの期待感である。教員と生徒が、授業に関する意識や行動を共有することにより、例えば、授業アンケートそのものが「コミュニケーションツール」として機能し、教員と生徒に健全なパートナーシップを生み出すことが期待される。

教員が授業改善することと、生徒が学習スタイルを改善することは、車の両輪として連動すべきものである。双方の努力が、授業評価というコミュニケーション機会を通して、日常の「魅力的な授業」づくりに浸透していくことが最も重要である。

3 組織的な取組と課題の把握・目標の設定

学校として組織的に授業評価を行うためには、全教員が、授業評価の意義や実施の趣旨について共通理解を図ることが重要である。

そのためには、「授業評価委員会」（仮称）を設置したり、既存の分掌や委員会にその業務を明確に位置づける等、実施する校内体制（組織）を決定することが必要である。

さらに、定期考査や実力考査の結果等により生徒の学力の実態を把握するとともに、授業アンケートや学校教育自己診断等の結果により、授業における課題を明らかにした上で、「めざす学校像」「育てたい生徒像」を踏まえ、「めざす授業像」を明確にしなければならない。そして、授業改善や授業力向上などを学校全体の課題とし、学校経営計画（中期的目標・本年度の重点目標と取組）に位置づけるなど、具体的な目標と取組計画を設定することが重要である。

【「めざす授業像」例】

「めざす授業像」の構成要素例

年間指導計画への位置づけが明確である
ねらいや目標が明確に生徒に示されている
理解度のチェック等、授業の振り返りを行う
生徒の主体的な学習活動を取り入れている
生徒に自ら考え、気付かせる工夫をしている
考えを書かせたり、発表させたりしている
生徒一人ひとりの学習状況が把握できている
資料・プリント等の教材を効果的に活用する
ICTや視聴覚教材を適切に活用する
板書が見やすく、発問が分かりやすい
テンポがあり、双方向のやりとりがある
互いに認め合い、高め合う学習集団をつくる

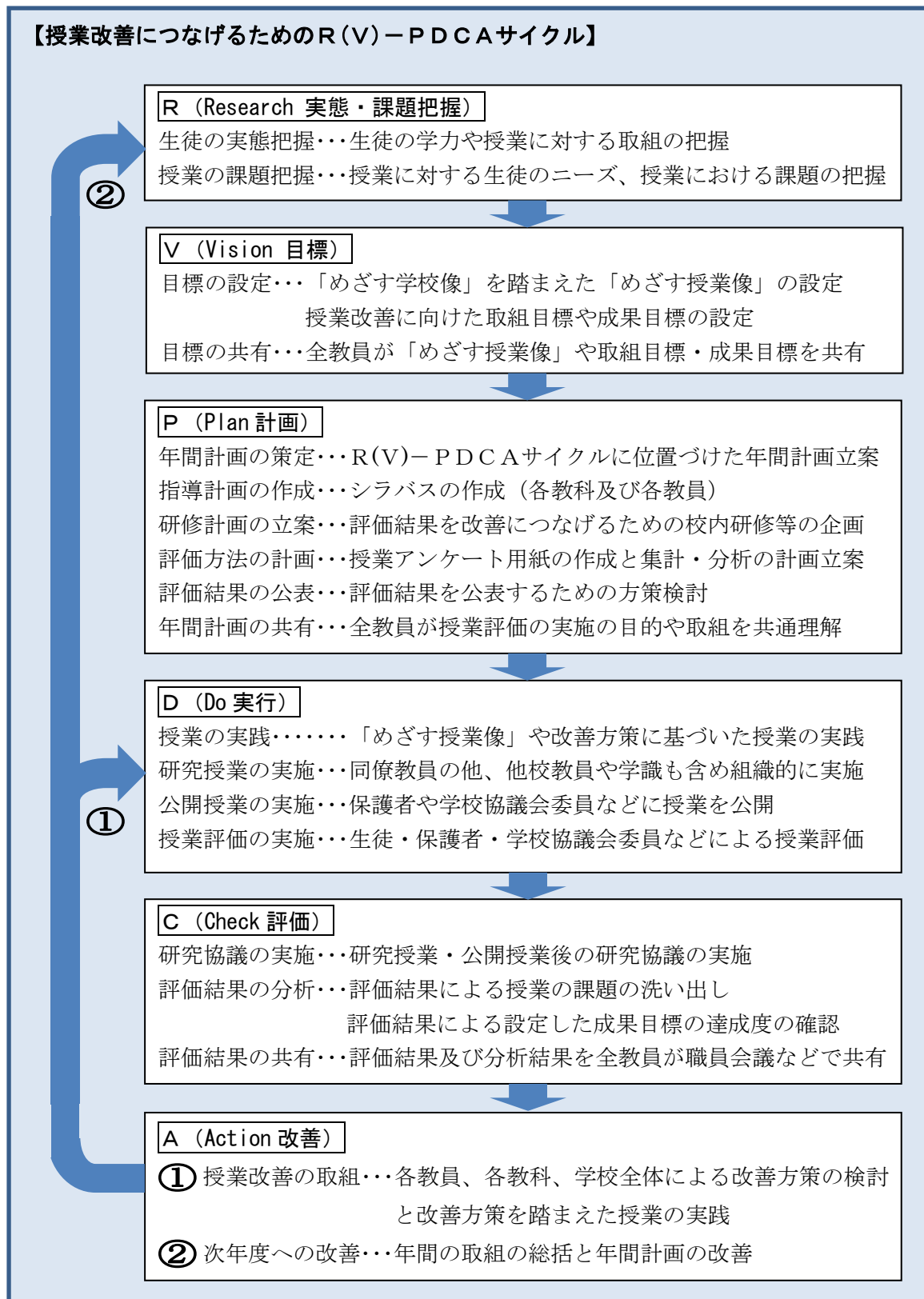
期待される生徒の変容

授業に集中する
主体的に授業に参加する
授業に意欲的に取り組む
科目に対する興味・関心が深まる
「分かった」という実感をもつ
学習することの楽しさを味わう
達成感・満足感・充実感を味わう
知識や技能を確実に習得する

学力向上

4 年間計画の策定

授業評価の実施を授業改善につなげるには、年間の見通しを立てた取組が必要となる。課題の把握を踏まえた目標設定から授業評価の実施、そして、授業改善の取組までの流れを明確にしたR(V)-PDCAサイクルに位置づけた年間計画を策定する必要がある。



【年間計画の策定例】

	生徒による 授業アンケート	研究授業・公開授業	校内の取組（研修・会議等の開催）
3月	授業アンケート項目の検討 集計・分析の計画	研究授業、公開授業、 授業見学の企画	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒の学力の実態や授業の現状・課題の把握 (授業アンケート・学校教育自己診断、定期考査・実力考査などの分析) ■「めざす授業像」と授業改善の目標の設定 (授業改善に向けた取組目標・成果目標を設定) ■年間計画立案(生徒による授業アンケート、研究授業・公開授業等の実施計画) 【職員会議】(授業評価実施に向けた共通理解) 【教科会議】(シラバス作成)
4月			「めざす授業像」とシラバスを踏まえた授業実践開始
5月		研究授業の実施 →	【教科会議】(研究協議による振り返り)
6月		公開授業の実施 → (保護者による授業アンケートの実施)	■評価結果の集計・分析と課題の洗い出し
7月	授業アンケートの実施(第1回)	→	■評価結果の集計・分析と課題の洗い出し
8月			<ul style="list-style-type: none"> ■授業担当・【教科会議】による改善方策の策定 【職員会議】(分析結果・改善方策の共有)
9月			改善方策を踏まえた授業の実践開始 ■評価結果公表(生徒・保護者、学校協議会等)
10月		公開授業の実施 → (学校協議会委員による授業アンケートの実施)	■評価結果の集計・分析と課題の洗い出し
11月		研究授業の実施 →	【教科会議】(研究協議による振り返り)
12月	授業アンケートの実施(第2回)	→	<ul style="list-style-type: none"> ■評価結果の集計・分析と授業の改善状況の把握 (成果指標に対し設定した目標の達成状況確認)
1月			<ul style="list-style-type: none"> ■授業担当・【教科会議】による改善方策の策定 ■評価結果公表(生徒・保護者、学校協議会等) 【職員会議】(分析結果・改善方策の共有)
2月			【校内研修】(授業の改善状況を踏まえた、授業力向上に向けた議論など)
3月	アンケート用紙の見直し 集計・分析の計画	研究授業、公開授業、 授業見学の企画	<ul style="list-style-type: none"> ■年間の取組に対する総括(課題・改善点の整理) ■新たな授業改善の目標設定 ■総括を踏まえた次年度の年間計画立案 【職員会議】(年間計画の周知) 【教科会議】(シラバス作成)

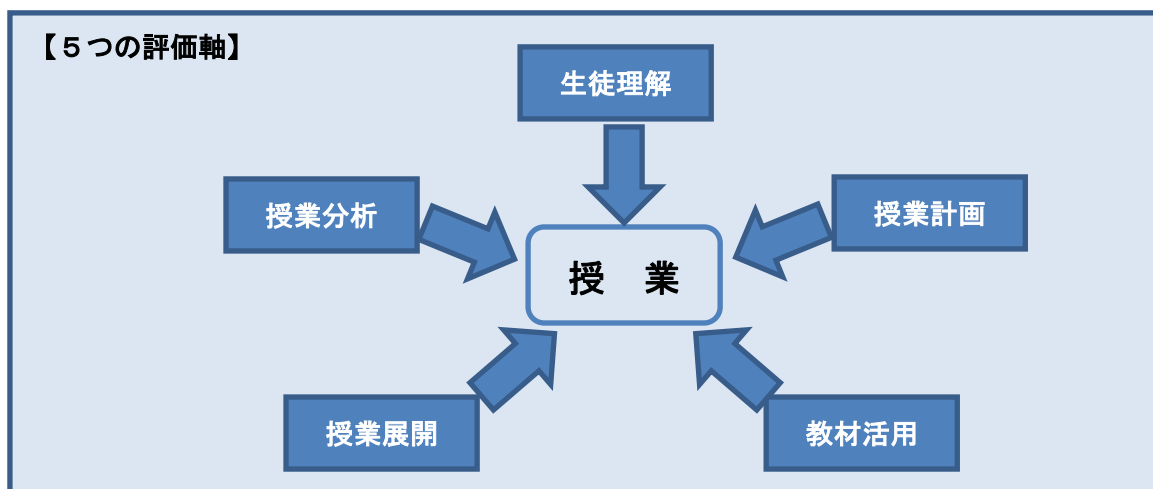
教科を中心とした教員相互の授業見学の実施(年間を通して)

5 評価軸について

授業評価の実施にあたっては、評価の観点となりうる適切な評価軸を設定する必要がある。

下図に示す評価軸は、平成 22 年 3 月に「授業評価ガイドライン」を策定した際に、「めざす授業像」の構成要素を、授業前（計画段階）、授業中（授業実践）、授業後（分析・改善）の 3 つのフェーズから分析し、教育工学の見地から研究者の助言を得て、独自に設定したものである。

今後も、この「生徒理解」「授業計画」「教材活用」「授業展開」「授業分析」から成る評価軸を用いて、授業改善に向けた取組を進めるものとする。



評価軸	具体的な内容例
「生徒理解」	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲や学習状況などを客観的に把握する。 生徒のよさを称揚するなどにより、学習意欲を喚起する。 互いに認め合い高め合うための学習集団づくりに努める。
「授業計画」	<ul style="list-style-type: none"> ねらいや目標に基づいた単元計画を立てる。 各単元や授業における学習目標を生徒に明確にする。 学習目標達成に向け、学習過程や学習形態などを工夫する。 指導計画に即し、評価方法を工夫する。
「教材活用」	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を引き出すための教材の工夫・開発をする。 資料・プリント等の教材や I C T ・視聴覚教材を効果的に活用する。 教材に対する深い理解と専門的知識を持つ。
「授業展開」	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な活動を入れ、自ら考え気付かせる工夫をする。 考えを書かせたり、発表させるなどの言語活動を取り入れる。 生徒を引きつけるための効果的な発問をする。 大きくていねいな字で、内容も整理した板書をする。 生徒の状況に対応した適切な指示、分かりやすい説明を行う。 学習意欲・学習態度を育成するための規律ある授業を展開する。
「授業分析」	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習成果の客観的な分析・評価を行う。 指導計画に対する授業の振り返りを行い、自ら課題を見つける。 授業力の向上と授業改善をめざす向上心を持つ。

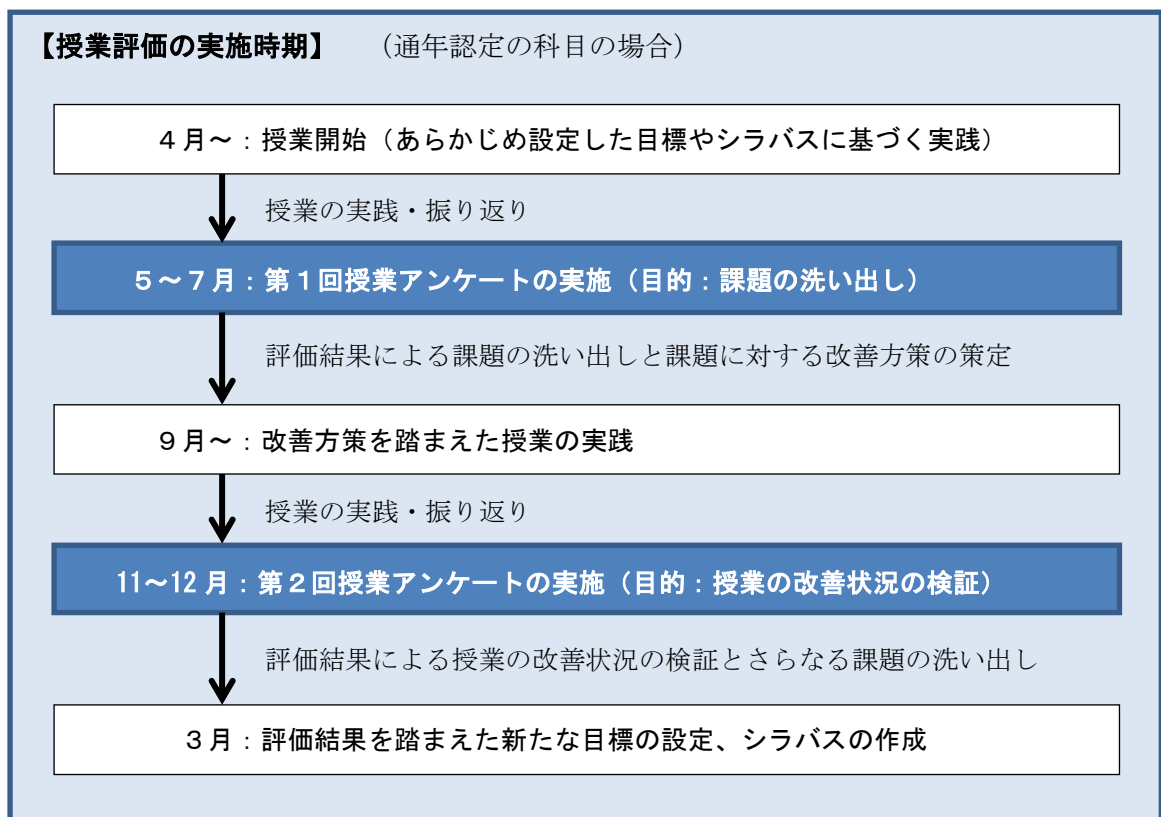
II 生徒による授業アンケートの実施

1 実施回数と実施時期

府立高校全校において、年2回、生徒による授業アンケートを実施する。

授業アンケートを実施するおもな目的は2つあり、その1つは授業の課題を明らかにすることである。そのために、授業アンケートを年度の早い時期に実施し、各教員が自らの授業の課題を洗い出した上で、改善方策を踏まえた授業を実践することが求められる。

また、もう1つの目的は、授業の改善状況の検証、すなわち、めざす授業が実現したかどうか、また、授業アンケートにおいて明らかになった課題が、それ以降の授業において改善されているかどうかなどを検証することである。当該年度内に、課題の洗い出しと授業改善状況の検証を行うためには、年2回、授業アンケートを実施することが必要であり、このような理由から、平成25年度より、府立高校全校において、5月～7月と11月～12月の年2回、生徒による授業アンケートを実施することとしている。



なお、半期認定の科目についても、原則的には、半年に2回のアンケートを実施することが望ましい。しかしながら、授業実施期間が短いことなど、日程上の制約等により、半期に2回の授業アンケートを効果的に実施することが難しい場合も考えられる。そのような場合には、1回の授業アンケートにより、課題の洗い出しや、あらかじめ決定した目標の達成状況の検証など、学校の教育課程の実情に合った「授業評価」の実施方法を工夫していただきたい。

2 実施方法

- すべての教員について、授業を担当する全クラスにおける授業アンケートを実施する。
- 校長・准校長が教員一人ひとりの評価結果を把握する。

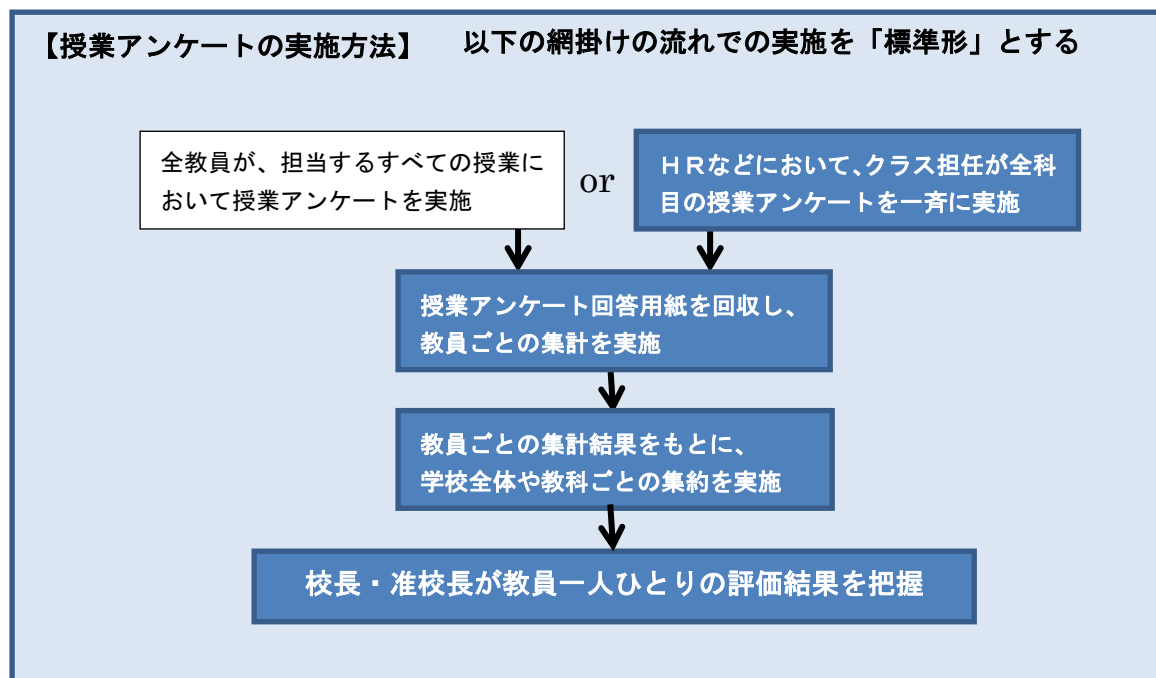
授業評価については、大別すれば、各教員がそれぞれの授業において実施する方法と、クラス担任がHRなどで一斉に実施する方法が考えられる。

いずれの方法にもメリット・デメリットがあるが、平成25年度から府立高校全校で共通に、

①すべての教員について、授業を担当する全クラスにおける授業アンケートを実施する。

②校長・准校長が教員一人ひとりの評価結果を把握する。

ことを踏まえれば、一斉実施・集計の利点、評価の公平性の担保などから、担任がHRなどで一斉に実施する方法が望ましいと考え、これを府立高校の「標準形」とすることにした。



なお、「標準形」での実施を各学校でスムーズに行うため、HRなどにおいて全科目の授業アンケートを一斉に実施し、集計・分析を行うことができる「授業アンケート分析システム」（11頁～13頁を参照）を開発している。

これは、「GR」（マークシート処理システム）をベースとした汎用性の高いシステムで、生徒一人ひとりのアンケート用紙の印刷から、ドキュメントスキャナを利用した集計、教員ごとの個人票や教科ごとの集計結果の出力までを容易に行うことができるもので、すべての府立高校に対応している。

3 授業アンケートの質問項目

年度第1回の授業アンケート（5～7月実施予定）は、各授業の課題を洗い出すことを主目的として実施するものである。評価軸は、前述の「生徒理解」「授業計画」「教材活用」「授業展開」「授業分析」の5つである。

次の表は、5つの評価軸に基づく質問項目例である。これらを参考に、各校が生徒の実態や授業の実情を踏まえて設定する「めざす授業像」の実現度が検証できるような質問項目にすることが望まれる。なお、質問項目や授業アンケート用紙については、平成22年3月版「授業評価ガイドライン」12頁～16頁も参照されたい。

評価軸	質問項目例
「生徒理解」	この授業の進度や難易度は自分にとって適切である。 先生は授業中巡回するなど、一人ひとりの学習状況を把握しようとしている。 先生はノートを提出させるなど、一人ひとりの学習状況を把握している。 先生は一人ひとりの学習の成果やつまずきに気づき、対応してくれる。
「授業計画」	先生は毎時間、授業の目標や大切なポイントを説明してくれる。 先生は前回の授業の振り返りや次回の授業の予告などをしてしてくれる。 先生は授業内容により、グループ学習や個別学習などをうまく取り入れる。 先生は評価方法を具体的に示してくれている。 先生の授業は、時間どおり始まり時間どおりに終わる。
「教材活用」	先生は教科書のほか、役に立つ資料やプリントなどをうまく使っている。 先生はICT機器や視聴覚教材を有効に活用している。 先生は適度に課題や宿題を与えてくれる。 先生は授業中に小テストを実施し、理解度を確認してくれる。
「授業展開」	先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい。 先生の黒板の字はわかりやすく、内容も整理されている。 先生は授業中に、質問したり考えたりする時間をうまく取ってくれる。 授業の進め方が工夫されており、先生の授業はメリハリがある。 興味がわくような質問を入れるなど、先生は授業に工夫をしている。 先生は発表する場面を設けるなど、授業に参加できるような工夫をしている。 先生は授業中の私語や居眠りに対して適切に注意してくれる。 この授業は楽しく、集中して取り組むことができる。
「授業分析」	先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業の改善に生かしている。 先生は自分の授業を振り返り、改善しようとする意欲をもっている。 先生はテストの結果だけでなく、学習の状況を適切に評価してくれる。

加えて、生徒に学習態度を振り返らせる目的で、生徒自身の自己評価項目として、授業に対する取組についての質問項目（次表参照）を入れたり、生徒の率直な意見を聞くために、自由記述欄を設けたりすることも重要である。

4 全校・全教員共通の質問項目について

各校が行う授業アンケートに、全校・全教員共通の質問項目を入れる。

平成 25 年度より、各校が行う授業アンケートに、全校・全教員共通の質問項目を入れることとする。また、生徒自身の授業に対する取組に関する質問（2問）、5つの評価軸に基づく授業の様子に関する質問（5問）、授業に対する生徒の意識に関する質問（2問）を府立高校の「標準形」とする。

以下の授業アンケート項目は、講義形式・実技形式の参考例として作成したものである。

生徒自身の授業に対する取組（質問1・質問2）や、授業の様子（質問3～質問7）については、各学校が生徒の実態及び教科・科目の特性に応じた質問項目を設定することとするが、授業に対する生徒の意識に関する2問（質問8・質問9）については、全校・全教員が実施する共通の質問項目とする。

【講義形式の授業アンケート項目例】

■授業に対する生徒の取組

質問1：授業内容について、必要な予習や復習ができている。

質問2：授業中は、集中して先生の話聞き、学習に取り組んでいる。

■授業の様子

質問3：（生徒理解）授業の進捗や難易度は自分にとって適切である。

質問4：（授業計画）毎時間、授業の目標や大切なポイントを説明してくれる。

質問5：（教材活用）先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている。

質問6：（授業展開）先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい。

質問7：（授業分析）先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。

■授業に対する生徒の意識

質問8：授業に、興味・関心をもつことができたと感じている。

質問9：授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。

全校・全教員
共通の
質問項目

【実技形式の授業アンケート項目例】

■授業に対する生徒の取組

質問1：授業中は集中して先生の指示やアドバイスを聞いている。

質問2：進んで実習に取り組むなど、授業に積極的に参加している。

■授業の様子

質問3：（生徒理解）先生は生徒の状況を把握しながら授業を進めている。

質問4：（授業計画）毎回授業の初めに、授業の目標や実習の仕方を説明してくれる。

質問5：（教材活用）先生が与える教材や課題の量は自分にとって適切である。

質問6：（授業展開）先生の指示は的確でわかりやすく、すべきことが理解しやすい。

質問7：（授業分析）先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。

■授業に対する生徒の意識

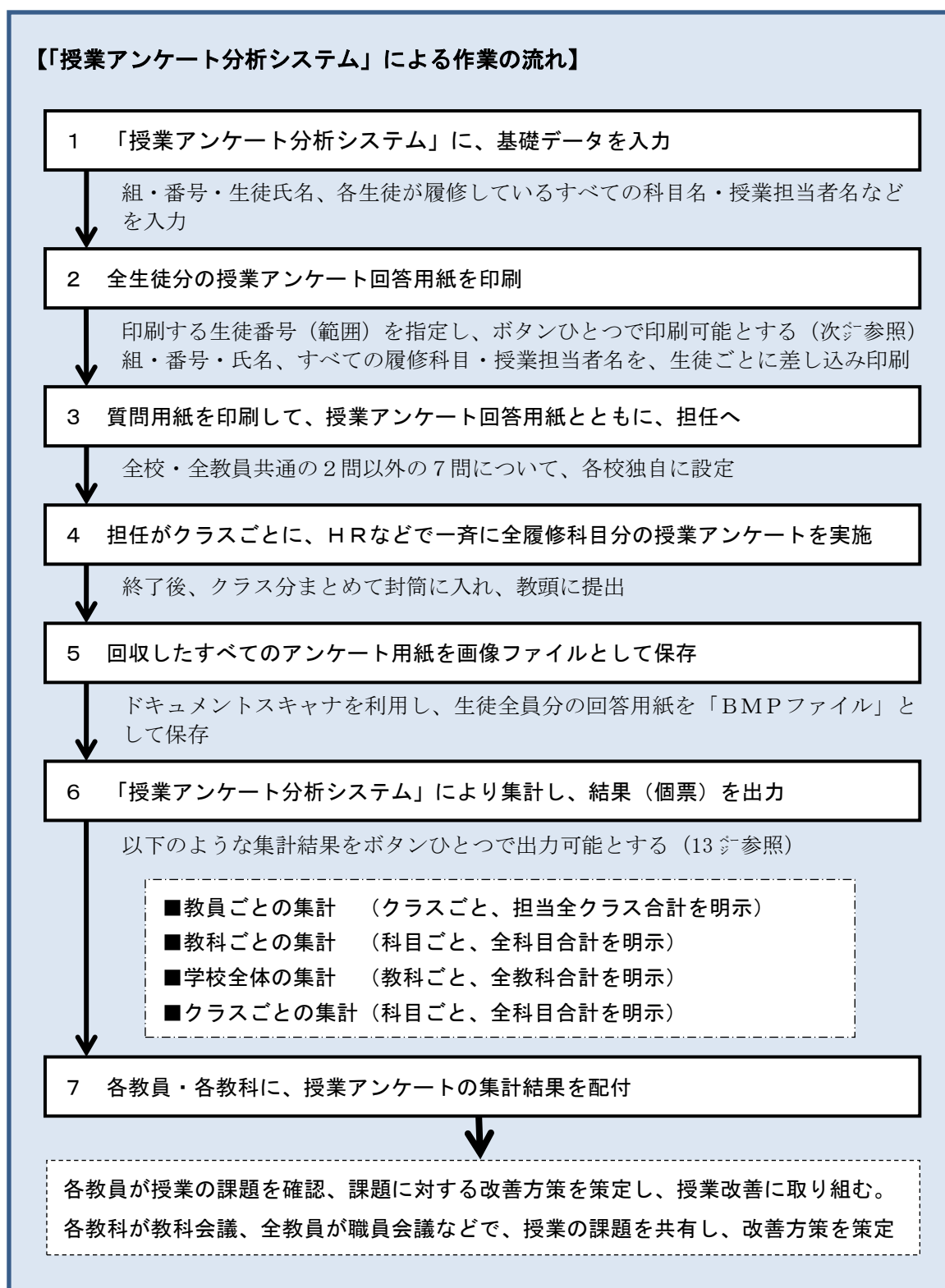
質問8：授業に、興味・関心をもつことができたと感じている。

質問9：授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。

全校・全教員
共通の
質問項目

5 「授業アンケート分析システム」について

現在、開発中の「授業アンケート分析システム」による作業の流れは以下のとおりである。



以下のアンケート用紙は、「授業アンケート分析システム」による出力イメージである。

*生徒一人ひとり個別の回答用紙を使用（記名式）、自由記述欄あり

【授業アンケート回答用紙例】

授業アンケート回答用紙

1 年 1 組 3 番 D 島 P 子

A : よくあてはまる

B : ややあてはまる

C : あまりあてはまらない

D : まったくあてはまらない

国語A		国語B		社会A		数学A		数学B		理科A	
Q島		W川		T山		D山		X山		H本	
1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
理科B		体育A		体育A		体育A		音楽A		英語A	
V木		G村		F川		K島		D村		D田	
1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
英語B		家庭A		情報A							
L木		D田		V木							
1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	1	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	2	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	3	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	4	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	5	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	6	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	7	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	8	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	9	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

受けてよかったと思う授業があれば、その理由も含めて書いてください

改善して欲しいと思う授業があれば、その改善点も含めて書いてください

以下の表及びグラフは、教員ごとの授業アンケート結果（個人票）、科目別の授業アンケート結果の出力イメージである。

【授業アンケート結果（個人票）例】

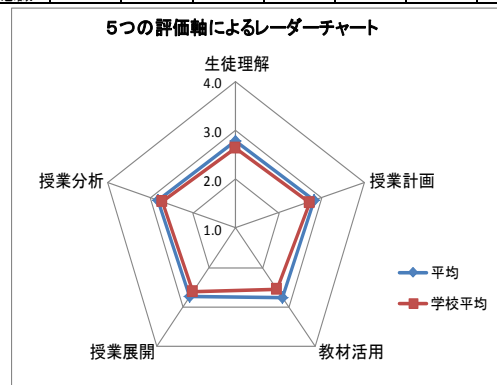
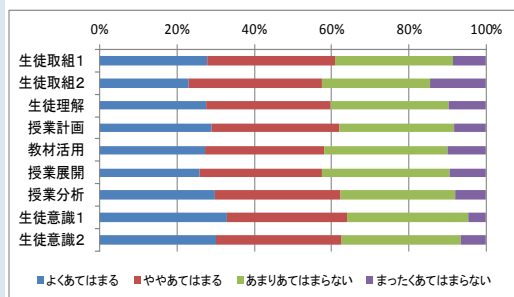
第1回授業アンケート結果（個人票）

教科 氏名

科目名	クラス	1	2	3	4	5	6	7	8	9
数学Ⅰ	1-1	2.7	2.8	2.6	3.0	2.7	2.7	2.9	3.1	3.0
数学Ⅰ	1-2	2.8	2.6	3.0	2.8	2.7	2.8	2.9	3.0	2.9
数学Ⅰ	1-3	2.5	2.7	2.8	2.6	2.8	2.9	2.6	3.0	2.8
数学Ⅰ	1-4	2.8	2.7	2.6	2.8	2.8	2.7	2.9	2.8	2.6
数学A	1-1, 2	3.0	2.6	2.8	2.9	2.8	2.7	2.8	2.9	3.1
数学A	1-3, 4	2.8	2.7	2.6	2.8	2.8	2.6	2.9	2.8	2.6
数学A	1-5, 6	3.0	2.6	2.8	2.9	2.8	2.7	2.8	2.9	3.0
数学A	1-7, 8	2.8	2.6	3.0	2.8	2.7	2.8	2.9	3.0	2.9
		2.80	2.66	2.78	2.83	2.76	2.74	2.84	2.94	2.86

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	計	平均	学校平均
生徒取組1	87	102	95	27	311	2.80	2.64
生徒取組2	72	107	87	45	311	2.66	2.59
生徒理解	86	100	95	30	311	2.78	2.63
授業計画	90	103	92	26	311	2.83	2.72
教材活用	85	96	99	31	311	2.76	2.54
授業展開	80	99	103	29	311	2.74	2.62
授業分析	93	101	92	25	311	2.84	2.73
生徒意識1	102	97	98	14	311	2.92	2.82
生徒意識2	94	101	95	21	311	2.86	2.78

*よくあてはまる…4、ややあてはまる…3、あまりあてはまらない…2、まったくあてはまらない…1として算出

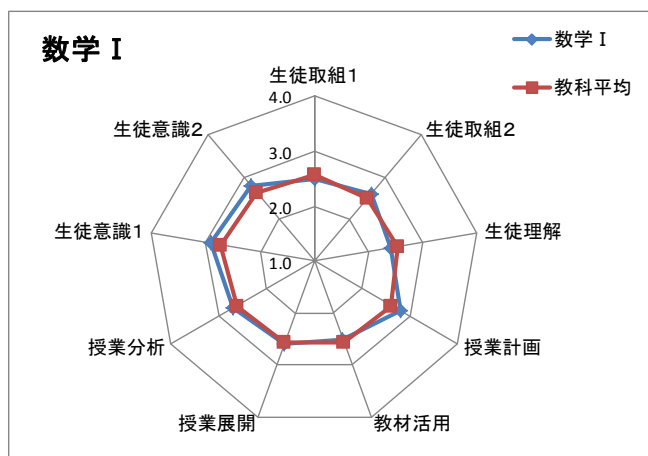


【授業アンケート結果（科目別）例】

第1回授業アンケート結果（科目別）

教科

学年	科目	生徒取組1	生徒取組2	生徒理解	授業計画	教材活用	授業展開	授業分析	生徒意識1	生徒意識2
1年	数学Ⅰ	2.5	2.6	2.4	2.8	2.5	2.6	2.7	2.9	2.8
1年	数学A	2.6	2.4	2.8	2.6	2.5	2.6	2.7	2.8	2.7
2年	数学Ⅱ	2.3	2.5	2.6	2.4	2.6	2.7	2.3	2.8	2.6
2年	数学B	2.6	2.5	2.4	2.6	2.6	2.5	2.7	2.6	2.4
3年	数学Ⅲ	2.8	2.4	2.6	2.7	2.6	2.5	2.6	2.7	2.9
3年	数学演習	2.6	2.5	2.4	2.6	2.6	2.5	2.7	2.6	2.4
	教科平均	2.57	2.48	2.53	2.62	2.57	2.57	2.62	2.73	2.63



6 評価結果を授業改善につなげる取組

- 個々の教員及び教科会議等において、授業の課題を洗い出し、改善方策を策定する。
- 学校全体や教科ごとに集約し、その結果を全教員が共有する。

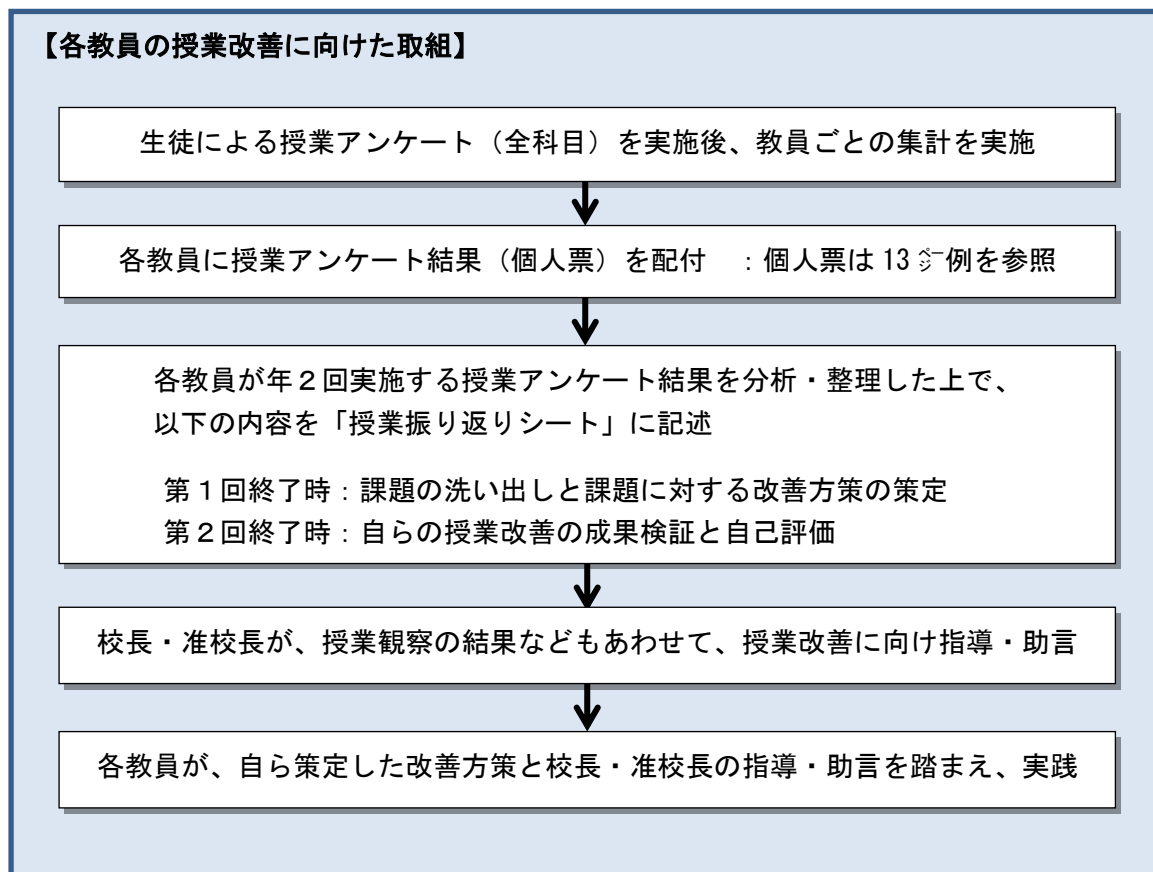
評価結果を授業改善につなげるには、各教員が自らの授業の課題を分析・整理した上で、速やかに改善方策を策定するとともに、各教科においても教科としての課題を把握した上で、授業改善をめざした取組を進めるなど、学校全体として組織的に取り組むことが重要である。

(1) 教員の取組

授業を改善するには、個々の教員が授業改善に向けた強い意識を持つとともに、めざすべき目標とそれに向け取り組むべき課題を踏まえた実践計画を立て、計画に基づいた毎時間の授業実践を通して、授業を振り返り、自らの課題を分析し、改善の方策を検討するといったR(V)－PDC Aサイクルに位置づけられた取組を実践しなければならない。

また、授業を客観的に分析するため、生徒による授業アンケートの結果を確認することも不可欠である。

さらに、校長・准校長が、各教員の授業改善の状況を把握するとともに、実施する授業観察の結果とあわせて、授業に対する指導・助言を行うことが求められる。その際、「授業振り返りシート」(次頁例参照)を活用することも考えられる。



【授業振り返りシート例】

授業振り返りシート 教科 () 氏名 () ○月○日提出

評価軸		第1回結果	明らかになった課題	課題に対する改善方策
生徒の取組				
評価軸	生徒理解			
	授業計画			
	教材活用			
	授業展開			
	授業分析			
生徒の意識				
授業改善に向けた方針・目標				

○月○日提出

評価軸		第2回結果	授業改善に関する自己評価
生徒の取組			
評価軸	生徒理解		
	授業計画		
	教材活用		
	授業展開		
	授業分析		
生徒の意識			
授業評価を受けた感想			

(2) 組織的な取組

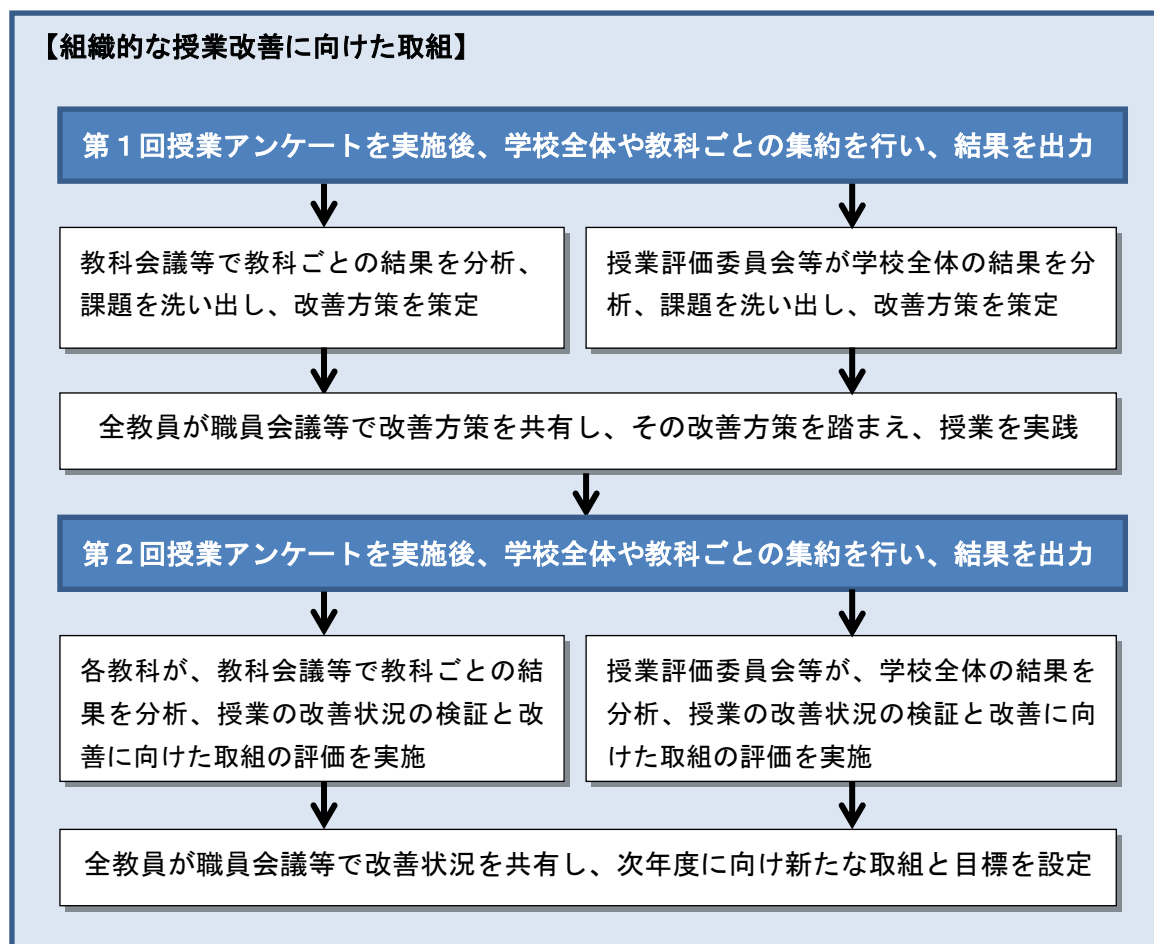
授業評価の実施をより意義あるものにするには、評価結果を各授業者のみの課題で終わらせることなく、教科全体の課題として教科会議で議論したり、学校全体の課題として校内研修を実施したりするなど、全教員が評価結果と課題を共有し、その課題を解決するための改善方策について検討することが必要である。

授業評価は、教員間のコミュニケーションツールでもあり、授業評価を通して、教員ひとりでは解決できなかった授業改善に向けた課題について議論することができるようになる。

教科会議や校内研修において、経験や授業スタイルの異なる教員がさまざまな観点から議論を行うことで、創意工夫に溢れたアイデアや改善方策が生みだされ、そこから教員間の信頼関係が深まることも期待できる。そして、その議論で出された意見や改善方策を、今後のシラバスや次年度の学校経営計画に反映させることが、さらなる授業改善につながるのである。

具体的取組としては、第1回授業アンケートは課題の洗い出しを主目的として実施するものであることから、実施後には、その集計結果を踏まえ、教科として、学校全体としての課題について議論し、その課題に対する改善方策とめざすべき改善目標を策定しなければならない。

また、第2回授業アンケートは授業の改善状況の検証を主目的として実施するものであることから、実施後には、第1回授業アンケート後に策定した改善目標の達成状況について検証するとともに、改善に向けた取組を評価しなければならない。なお、改善に至っていない場合には、その原因を追究するとともに、新たな実践計画を立てることも必要となる。



7 評価結果及び改善方策の公表

生徒による授業評価を実施した場合、教員は生徒に評価結果を伝えるだけでなく、その評価をどう分析し考察したかをフィードバックするとともに、生徒とともに授業を振り返る機会をもつことが有効である。

また、保護者にも授業評価実施の趣旨を伝えた上で、評価結果についての全体的な傾向や課題そして課題に対する学校としての改善方策などを示す必要がある。

さらに、学校通信やPTA新聞を用いた保護者への公表や学校協議会における委員への報告のほか、Webページを利用したより広範な公表について検討するなど、「開かれた学校づくり」の観点から、外部に対してしっかりと「説明責任」を果たさなければならない。

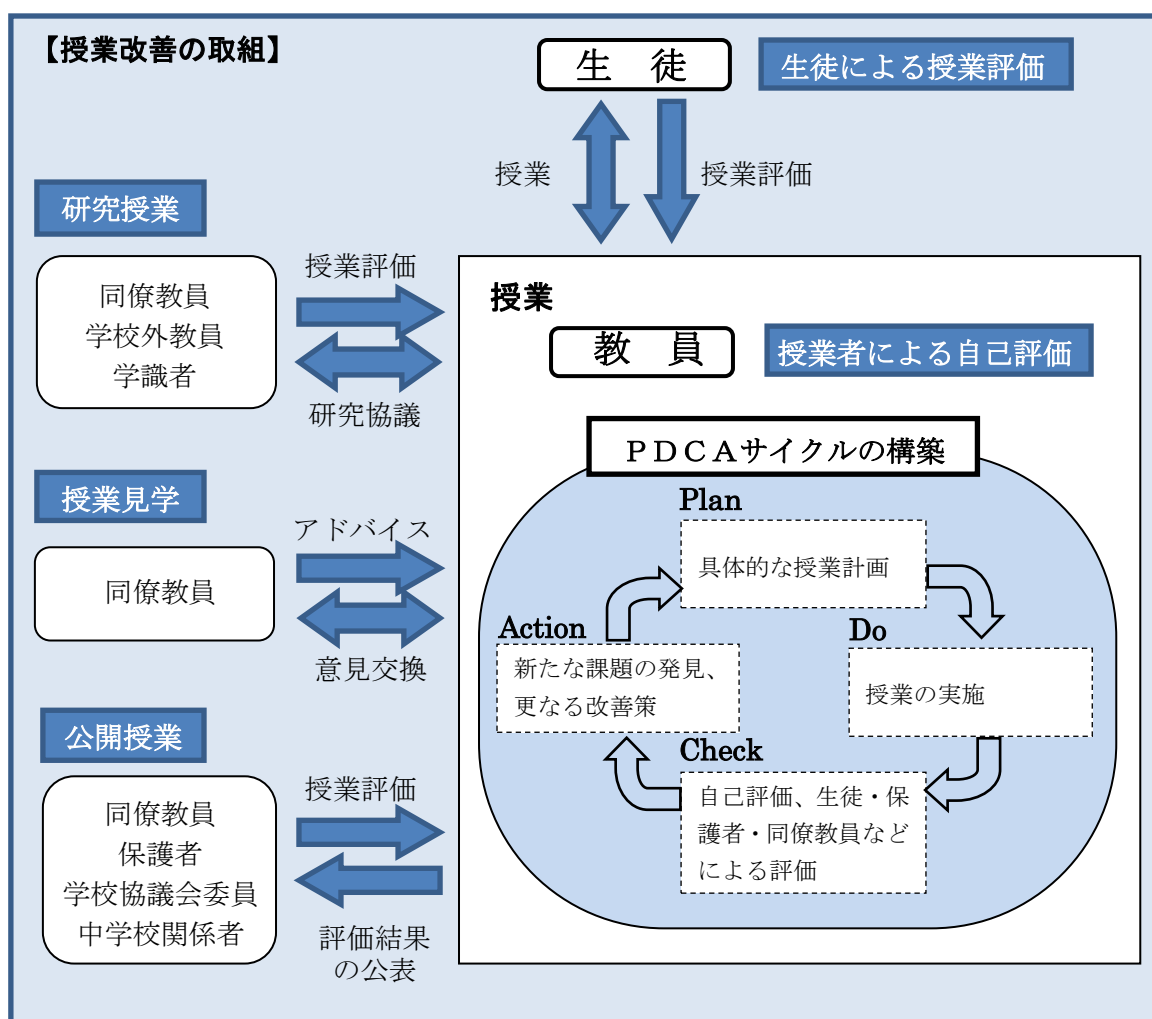
Ⅲ 研究授業・授業見学や公開授業の取組の充実

研究授業や授業見学、公開授業を行事計画に位置づけて実施するとともに、それらの実施が授業改善につながるような取組を進める。

■研究授業
 授業の質の向上を目的とし、よりよい授業のあり方を求めて研究的に行う授業。
 同僚教員、他校教員、学識者などが参観し、授業後の研究協議において、明らかになった課題を踏まえ、感想・意見の交換、指導助言等、その改善策についての協議を行う。

■授業見学
 同僚教員間（グループ、教科、学年、学校全体など）で互いに授業を見せ合い、授業における課題を共有するなど、授業改善の取組を推進する。

■公開授業
 同僚教員、保護者、学校協議会委員、中学校教員などに授業の様子や生徒の学習状況などを参観してもらうことを目的として実施する授業。



1 研究授業の実施

(1) 研究授業で期待される効果

研究授業は、校種や学校を超えた教員が授業を通して交流・意見交換したり、先輩教員が若手教員に指導のノウハウを伝達したりするための貴重な機会となる。

その研究授業において他の教員などから得るアドバイスは、授業者にとって、授業を改善するとともに重要な要素になる。また、授業者のみならず参観者にとっても、自らの授業実践を振り返る機会となり、授業を前向きに改善しようとする意識の向上につながるるとともに、他の教員の授業を観ることで授業の進め方や指導技術などを自ら学ぶことができる。

そして、研究授業の後に実施される研究協議において意見を交換することは、教員間のコミュニケーションを図るとともに、互いの信頼構築や人間関係づくりにもつながる。また、研究協議は「めざす授業像」を学校全体で共有する場としての役割も果たす。

(2) 研究授業の効果的な実施方法

授業者は、指導のねらいや評価の観点を整理した上で学習指導案を作成し、あらかじめ参観者に示しておくなど、十分な準備とそれに基づく授業計画を用意し、それに従って授業を展開することが必要である。

また、研究授業の実施にあたっては、授業を振り返って、分析・検討を行うための資料を収集しなければならない。例えば、ビデオによる撮影、ボイスレコーダーによる録音、授業者による自己評価シート、参観者によるメモなどによる記録のほか、参観者に授業アンケートを実施することも望まれる。

実施形態については、グループ、各教科、教科を超えた学年単位での研究授業のほか、学校全体で行う校内研修、他校との授業交流などさまざま考えられ、各学校の実態に合わせ計画的に実施することが大切である。また、段階的に広めていくとともに、行われた研究協議の内容を全教員が共有できるシステムづくりが重要となる。

(3) 研究協議のあり方

研究協議を実施するにあたっては、協議のねらいとテーマを明確にした上で、小グループごとの協議・発表という形態をとったり、参観者の授業アンケートを用いたワークショップ型の研究協議を企画したり、本音で話し合える雰囲気づくりに努めることが重要である。参観者は「授業者への批評」ではなく、その授業から「学んだこと」を述べ、多様な気づきを交換して相互に学び合うことが大切である。また、研究授業において生徒から授業アンケートをとり、その結果をもとに協議を行うことも有効である。



2 授業見学の実施

(1) 授業見学で期待される効果

見学者が同一教科の教員の場合は、授業内容の検証、同一教科としての指導技術の研鑽等、専門的視点からの課題の明確化が可能である。一方、他教科の場合においても、生徒把握や基本的な授業の進め方などの観点から、互いの授業改善に向けたよい機会となる。また、担任として自分のクラスの授業を参観する場合には、自身の授業時やホームルームでは見ることのできない生徒の様子を知る機会にもなる。

同僚教員間による授業見学は、チームとして授業改善に取り組む連帯意識を生み出すことにおいて非常に有効であると考えられるため、まずは、グループや教科、学年単位で授業を「公開」する環境づくりを始め、さらには学校全体の取組として広げていくことが望まれる。

(2) 授業見学の効果的な実施方法

授業見学を実施する期間を設けるほか、授業改善を図る目的で、特に期間を設けることなく日常的に同僚教員が相互に授業を見せ合う「授業公開」を実施することも有意義である。

なお、授業見学を実施する際には、たとえば、授業の進行や発問の工夫など、授業者がその授業で見てもらいたいポイントをあらかじめ示しておき、授業者、参観者が互いに明確な評価の観点と課題意識をもって授業参観に臨むことが重要である。

3 公開授業の実施

保護者や学校協議会委員対象の公開授業において、授業アンケートを実施する。

(1) 公開授業で期待される効果

公開授業を実施し、保護者などの学校関係者に授業の実態や生徒の学習状況などを把握、理解してもらうことは、家庭や地域とともに生徒を育てるという視点に立った「開かれた学校づくり」を進める上で重要となる。また、公開授業は、保護者などの学校教育への参画意識を高めるとともに、学校に対する信頼の構築につながることを期待できる。

(2) 公開授業の効果的な実施方法

保護者を対象とした授業参観については、授業公開週間として期間を長く設定したり、PTAの行事と合わせたり、土曜日に実施するなど、保護者が参加しやすい日程や形態について工夫する必要がある。また、学校協議会委員に対しては、事前に授業を参観してもらい、学校協議会の場で授業に関する協議を実施することが考えられる。

なお、公開授業を実施する際には、授業アンケートを実施することが望まれる。公開授業での授業アンケートは、保護者などが自ら授業を観察し授業を評価できる貴重な機会であるとともに、授業者である教員に対する評価に加え、学習集団に対する評価など、より多くの視点から授業評価を受けることができ、有効である。

次に示す授業アンケート用紙は、研究授業や公開授業などにおいて、授業参観者が個別の講義形式の授業の中で評価する形態を想定し、参考例として作成したものである。

【授業参観者による授業アンケート用紙例（講義形式）】

授業参観アンケート（平成25年〇月〇日〇限実施）

年 組（ ）先生 科目（ ）

該当するマークをしっかりと塗りつぶしてください。

○正しいマーク ×悪いマークの例

一部チェックは×
細線、薄いのは×

今後の授業改善に生かすため、授業についてのご意見・ご感想をお聞きます。下記の質問項目にお答えいただけますようお願いいたします。

1 回答いただくのは？ 以下から選んでください。

- | | | | |
|--------------------------------------|--|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1
<input type="checkbox"/> 本校教職員 | 2
<input type="checkbox"/> 本校生徒保護者 | 3
<input type="checkbox"/> 学校協議会委員 | 4
<input type="checkbox"/> 地域関係者 |
| 5
<input type="checkbox"/> 中学校教職員 | 6
<input type="checkbox"/> 中学生（保護者） | 7
<input type="checkbox"/> その他（ ） | |

2 授業内容について、以下の質問に答えてください。

（よくあてはまる・・・4、ややあてはまる・・・3、あまりあてはまらない・・・2、まったくあてはまらない・・・1）

- | | | | | |
|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ① 授業の難易度や進度は、生徒の学習状況や理解度に合わせたものになっていた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ② 先生は、巡回するなど、生徒の理解度や学習意欲を把握しようとしていた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ③ 先生は、授業の最初にねらいや目標を伝えるとともに、最後に振り返りを行っていた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ④ 生徒の発言や発表を取り入れるなど、生徒が授業に参加できる場面があった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑤ 先生は、教科書やプリント等、教材を効果的に活用していた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑥ 授業の進め方が工夫されており、授業にメリハリがあった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑦ 先生は、生徒の理解を助けるように、発問や指示を適切に行っていた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑧ 先生は、大きな声で分かりやすいことばを使って、説明したり質問したりしていた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑨ 字も大きくていねいで、内容も整理されており分かりやすい板書であった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ⑩ 生徒に分かる授業をしようという、先生の熱意や意欲が感じられた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

3 生徒の学習状況等について、以下の質問に答えてください。

（よくあてはまる・・・4、ややあてはまる・・・3、あまりあてはまらない・・・2、まったくあてはまらない・・・1）

- | | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| ① 生徒が、学習意欲を高め、常に集中できる学習環境や雰囲気であった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ② 生徒は自ら考え、授業内容を前向きに理解しようと取り組んでいた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ③ 生徒の取組の様子から、生徒は授業内容をおおむね理解したと考えられる。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| ④ 生徒にとって、「魅力的な授業」であると感じた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

4 この授業の良かった点と改善すべき点を記述してください。

【良かった点】

【改善すべき点】

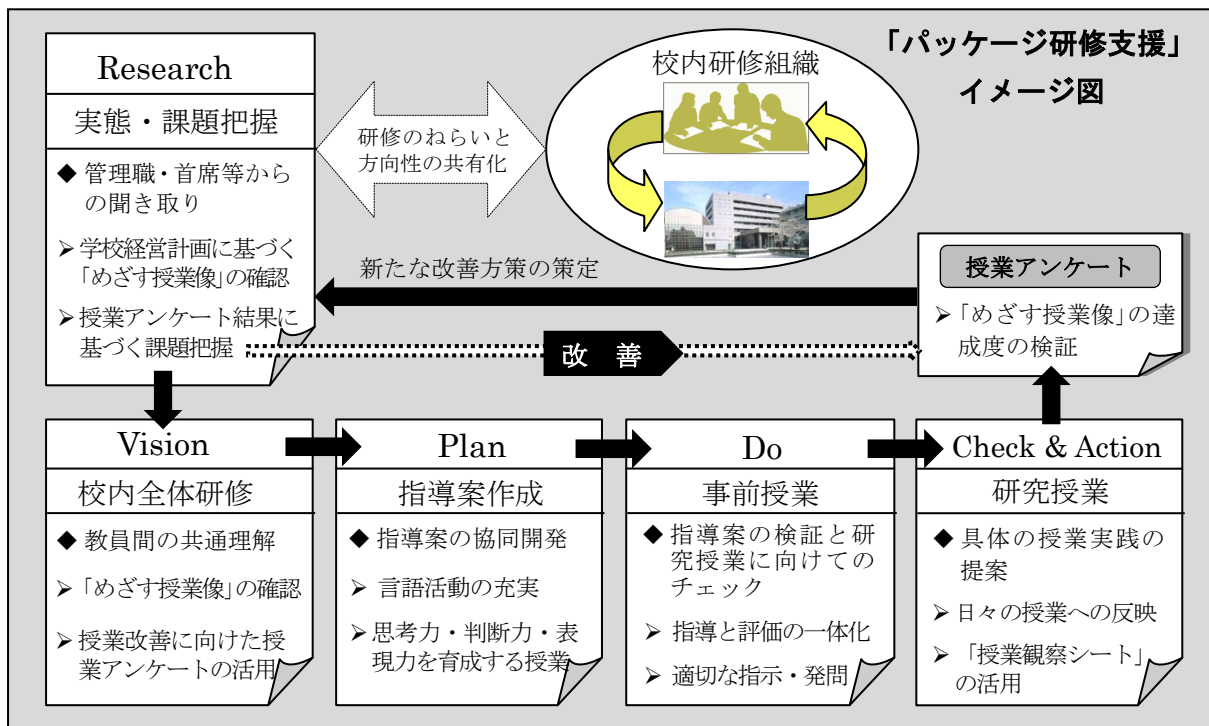
5 この授業を参観された感想を記述してください。

IV 府立高等学校「パッケージ研修支援」の取組 ～授業改善の実践例～

大阪府教育センターでは、平成24年度より、府立高校を対象に、組織的な校内研修体制の確立と教員全体の授業力の向上をめざして、継続的な支援を行う「パッケージ研修支援」を始めた。

パッケージ研修支援を始めた背景には、現在、教員の大量退職・大量採用の時期を迎えており、初任者等教職経験年数の少ない教員が増える中で、その授業力の向上が現在の大阪の教育における喫緊の課題の一つになっていることがある。その課題改善に向けて単発の研修の積み重ねではなく、授業アンケート結果に基づく学校の実態・課題把握から始まり、教員間で「めざす授業像」に向けた指導の在り方について共通理解を図る校内全体研修、指導案の協同作成、事前授業を経て研究授業に至る一連の研修を実施することで、学校全体で授業改善に向けたR(V)-PDCAサイクルの確立を図ることを目的としている。

以下、パッケージ研修支援のプロセスについて説明する。



1 Research (実態・課題把握)

めざす生徒像の実現に向けた授業改善を目的とした校内研究の基盤は、教員間での正確な生徒の実態及び課題の把握である。そのためには、生徒による授業アンケート等、客観的なデータに基づき、誰もが納得できる課題把握に努めることが肝要である。この授業アンケートの結果とめざす生徒像とのギャップから研修の方向性が決まってくる。

パッケージ研修においては、研修開始前に事前打合せとして、管理職と首席あるいは指導教諭等研修主担者が大阪府教育センターの研修担当者と当該校の学校経営計画で述べられている「めざす授業像」を確認するとともに、すでに実施された授業アンケートの結果から授業における課題を掘り起し、その課題の改善に向け研修のねらいと方向性について共通理解を図る。また、今後の研修がスムーズに進められるよう、この事前打合せで確認されたことを職員会議等で校内に周知してもらう。

2 Vision (校内全体研修)

パッケージ研修の第1回目に校内全体研修を実施し、研修実施校における授業アンケートから明らかになった課題をもとに「めざす授業像」を確認し、その実現に向けた具体的な授業づくりの在り方について教員間で共通理解を図る。

全体研修の前半では、PISA調査をはじめ各種学力調査等で明らかになった高校生の学力課題や、改正学校教育法で示された学力の3要素、また、その学力を生徒に身に付けさせるために必要な授業づくりの在り方を、今年5月に大阪府教育センターより出した「大阪の授業STANDARD」の内容をもとに解説する。

研修の後半では、学校経営計画等で示されている「めざす授業像」と授業アンケートの結果とのギャップを確認した上で、研修の前半で示された「大阪の授業STANDARD」の内容を踏まえ、「めざす授業像」の具現化に必要とされる指導上の留意点（各教科・科目に共通する授業づくりの要素）についてワークショップ形式でブレインストーミングをする。最後に、ワークショップを通じて出てきた授業づくりの要素を「〇〇高校の授業スタンダード」として観点別にまとめるとともに、それらの要素と対応する「授業観察シート」を作成する。

授業観察シート (例)		
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 0 auto; width: 80%;"> めざす授業像：思考力・表現力の育成を通して学力を向上させるとともに、生徒自らの学習意欲を高める授業 </div>		
	項 目	コメント
目標の設定 (授業計画)	①生徒の実態を把握した上で「本時の目標」を設定するとともに、活動の手順などを理解させている。	
活動内容の適切さ (教材活用)	②知的好奇心を抱き、取り組みたいと思わせる課題が設定されている。	
指導方法の適切さ (授業展開)	③机間指導で一人ひとりの理解度等を把握し、共通したつまづきをクラス全体にフィードバックしている。	
	④一人で考える時間が設定されている。	
	⑤グループで意見や考えを交流する時間が設定されている。	
個の学習の成立 (生徒理解・授業分析)	⑥クラス全体に自分の考えを発表する時間を設けているとともに、発表に向け適切に指導している。	
	⑦生徒の活動のよさを肯定的に評価している。	
	⑧1時間の授業の振り返りで、一人ひとりが満足感を味わっていた。	

この「授業観察シート（例）」では、授業アンケートから明らかになった課題の改善に向け、「思考力・表現力の育成を通して学力を向上させるとともに、生徒自らの学習意欲を高める授業」を研究主題とし、「①～⑦の手立てを行えば、⑧のように生徒は授業に満足するとともに、思考力・表現力が向上し学習意欲も高まる」という見通し（研究仮説）が表されている。

評価軸については、ここでは「目標の設定」「活動内容の適切さ」「指導方法の適切さ」「個の学習の成立」を例として設定しているが、本ガイドライン6章の「5 評価軸について」を参照し、各学校で適切に設定していただきたい。

このような「授業観察シート」を研究授業で活用することで、教員間で授業を見る視点を共通化することができる。また、授業後の協議でも教科の専門性が優先されることなく、めざす授業の具現化に向け協議内容を焦点化できるなど、「授業観察シート」はめざす授業の実現度や授業の改善度などを検証するツールになる。

この「授業観察シート」の項目は、授業アンケートの結果から見てきた課題の改善を通して「めざす授業像」の確立に向けて設定されたものである。これらの項目の内容を教員間で共通理解し、どの教員も同じベクトルで授業研究に取り組むことで授業が改善され、今後の授業アンケートの結果の改善も期待できる。

3 Plan（学習指導案作成）

校内全体研修で共有化した「めざす授業像」の具現化に向け、「授業観察シート」の項目内容を落とし込んだ指導案を作成する。指導案の作成の際には、授業者一人が作成に携わるのではなく、大阪府教育センター指導主事をはじめ、校内では同じ教科の同僚や指導教員はもとより、初任者等教職経験年数の少ない教員も作成に加わるなど、「めざす授業像」を具現化する授業づくりに向けて多くの教員が参加しアイデアを出し合うことが求められる。

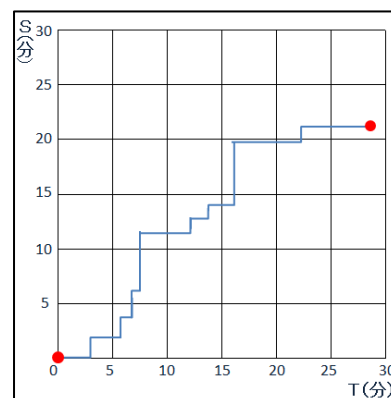
4 Do（事前授業）

研究授業の実施に向けて、学習指導案にあるねらいどおりの授業が行われたか、あるいは学習指導案に改善の余地があるかをチェックするために事前授業を行う。参観者は「授業観察シート」に基づいて授業を参観する。また、観点別S-T分析ソフトを活用するなど授業分析を実施し、客観的なデータも踏まえて、「めざす授業像」の実現度を検証する。

検証の結果から明らかになった課題について研究授業での改善策を検討する。場合によっては学習指導案を再検討し、研究授業はそれらの課題の克服を期して臨む。

*観点別S-T分析ソフトとは、授業中に出現する生徒〔S〕の行動（言語活動、非言語活動）と教師〔T〕の行動（言語活動、非言語活動）の二つのカテゴリーだけに限定して、授業中の生徒と教師の行動関係がどのように現れているかを分析するものである。

右図は累積折れ線グラフで、横軸（T軸）は教師の行動時間、縦軸（S軸）は生徒の行動時間を表す。



5 Check & Action (研究授業及び研究協議)

(1) 研究授業

参観者は、学習指導案に基づいて「授業観察シート」にコメントを記入するとともに、授業の客観的データの収集のため観点別S-T分析も行う。また、授業直後に生徒にアンケートを実施できれば、授業分析に厚みを増すデータとなる。

(2) 研究協議

研究授業が個人や教科任せになり個人の授業力の発表会になっていたり、授業後の研究協議においても教科の専門性の壁を超えられないことから、協議の内容が個人的な感想レベルの意見交換会にとどまっていたり、声の大きさや板書など授業者の指導技術のみを討議していることがよくある。パッケージ研修での研究協議では、参加者は「授業観察シート」の項目を踏まえ、視点を明確にすることで協議を焦点化し、議論の内容を深める。

例えば研究協議を次のように進める。

- ① 授業者による授業の意図の説明と振り返り
- ② 観点別S-T分析による事前授業と研究授業の比較を提示、改善点と課題の確認
- ③ 「授業観察シート」に基づくKJ法によるグループ討議
- ④ グループによる発表、討議内容の共有化
- ⑤ まとめ

②では、研究協議が印象に頼った主観的な評価に終始しないように、観点別S-T分析によりグラフなどの客観的なデータを提示する。事前授業と研究授業とでそれぞれ観点別S-T分析を実施したならば、それぞれ授業における観点別のグラフをスクリーン等に提示し比較分析をすることで、「めざす授業像」への達成度を客観的に検証することができる。

③では、「授業観察シート」を活用することで、「めざす授業像」の実現のために必要なすべての教科に共通する授業づくりの要素を教科の専門性の枠を超えて討議ができ、また協議が実効性をもって焦点化される。

協議において最も重視すべきことは、指導内容や指導方法の適切さ等、授業者の姿に視点を当てることはもちろんであるが、むしろ、「めざす授業像」の実現の観点から、生徒のよりよい変容の姿を中心に置き、めざす授業がどこまで達成されているかを教員全体で検証することであることを忘れてはならない。

今後、「授業アンケート」や「学校教育自己診断」から明らかになった課題の改善に向け、パッケージ研修を通して校内研修の体制を確立し、R(V)-PDCAサイクルに基づき授業研究を推進することで、生徒・保護者にとって十分満足できる授業を提供するとともに、研究の過程で職員集団のモラル（士気）が高まり、学校教育目標の具現化への一体感が生まれることをめざしたい。

なお、パッケージ研修支援における各学校の取組については、大阪府教育センターのウェブページ「府立高等学校『パッケージ研修支援』」、

http://www.osaka-c.ed.jp/kak/karikenweb/package/package_top.html

また、授業研究の進め方については、同ウェブページ「調査・研究」の「平成23年度の刊行物」の「附属高等学校における『授業研究』システム・プログラムの開発」、

<http://www.osaka-c.ed.jp/kate/investigate.html>で、それぞれご覧いただけます。

「パッケージ研修支援」実施校の取組

次項よりパッケージ研修を実施している全27校のうち、みどり清朋高校、岬高校、緑風冠高校、三島高校、久米田高校、富田林高校のそれぞれ現在進めつつある取組について紹介する。

1 みどり清朋高校の取組

(1) みどり清朋高校について

みどり清朋高校は普通科総合選択制で、「理数・自然科学」「情報・表現」「スポーツ」「保育・福祉」「国際文化」「人文」の6つのエリアを2年生から選択し、キャリア教育を通して進路実現の力を育成するとともに、小高連携の推進を通して地域に信頼される学校づくりをめざしている。

今年度、学校経営計画の中期目標として、新学習指導要領を踏まえ「わかる授業、充実した授業」を「めざす授業像」とし、授業改善PTを核に、公開授業、研究授業、相互参観、授業アンケートの活用を通して組織的に授業改善に取り組み、その取組を学校全体で具体化するためのシステムとしてパッケージ研修を実施する。

(2) 「めざす授業像」とその実現に向けての課題

「めざす授業像」としての「わかる授業、充実した授業」に対して、授業アンケートにおける「授業を通じて学習への興味・関心が高まったか」の項目や、学校教育自己診断において、新学習指導要領で重要視されている授業における「言語活動の充実」度を示す「授業で考えをまとめたり、発表したりすることがよくある」の項目に対する肯定的な回答の割合が低いことなど、「めざす授業像」の実現に向けた具体的な課題が明らかになっている。

そこで今回パッケージ研修を実施することで、これらの課題の改善に向け、学校全体で授業改善に取り組み、授業の活性化を通して基礎学力の向上を図るとともに、生徒一人ひとりの学習意欲を高めようと考えている。

(3) 校内全体研修

パッケージ研修の第1回校内全体研修では、前半に大阪府教育センターの指導主事から、今求められる学力観やそれに基づく授業づくりの在り方について講義があり、後半のワークショップでは、授業アンケートや学校教育自己診断から明らかになった課題の改善に向け、「学習内容への興味、関心を高め、理解度を高め、生徒を満足させる授業づくりに必要な指導上の留意点は？」というテーマに基づいて参加者全員でグループワークを行った。どのグループでもたいへん活発な話し合いがもたれ、学校全体で授業改善に取り組もうとする意欲と熱意が強く感じられるワークショップとなった。

ワークショップ最後のグループ交流では、「めざす授業像」の実現に向け、次のようなアイデアが出された。

ア 学習内容の興味や関心を高めるために

- ・ 授業の導入時に本時の具体的な目標やねらいを明示し生徒に理解させる。
- ・ 指導内容に興味、関心をもたせるためにICTや視聴覚教材を効果的に活用すること。



(教育センター指導主事による講義)



(多くのアイデアが出されたワークショップ)

イ 授業における言語活動の充実に向けて

- ・考えや理解を深めるために、ペアやグループでの活動を取り入れるなど、多様な学習形態をとり、学び合いの雰囲気をつくる。
- ・生徒に答えを説明させたり、考えを発表させたりする機会を設けたりする。

ウ 生徒の意欲の向上に向けて

- ・生徒の活動のよさを肯定的に評価する。

これらのアイデアを「授業観察シート」に落とし込み、「めざす授業像」である「わかる授業、充実した授業」を実現する必要な各教科・科目共通の授業づくりの柱とするとともに、授業を見る共通の視点として教員間で共有化することで、教科の専門性を超えた学校全体での取組としていく。今後、英語科の研究授業に向け、「授業観察シート」に盛り込まれた項目の内容を指導上の留意点として指導案に取り入れ、事前授業を繰り返し実施する中で、生徒が、「分かる」「できる」という実感を持ち、一人ひとりが満足するような授業づくりが期待される。

みどり清朋高校 授業観察シート

	項 目	コメント
学習環境 (生徒理解)	①机上の整理等、学習に向かう環境が整っている。	
指導方法の適切 さ (授業展開)	②授業の導入で、本時の具体的な目標やねらいを明示し、生徒に理解させている。	
	③指導内容に興味、関心をもたせるためにICTや視聴覚教材を適切に活用している。	
	④考えなどを深めるために、グループ（ペア）学習を行うなど多様な学習形態をとっている。	
	⑤生徒の考えを書かせたり発表させたりすることで、言語活動の充実を図っている。	
個の学習の成立 (生徒理解・ 授業分析)	⑥授業の最後に、理解度のチェックをしたり、まとめを書かせたりするなど、授業の振り返りをしている。	
	⑦生徒の活動のよさを肯定的に評価していた。	
	⑧授業の振り返りで、生徒の一人ひとりが満足感、達成感を味わっていた。	

2 岬高校の取組

(1) 岬高校について

岬高校は地域に根ざした教育活動を展開する中で、生徒に社会規範や豊かな情操を育成しようとしている。また、地域社会との双方向の活動を通して、自尊感情をはぐくみ、「地域の誇り」となる学校づくりをめざしている。その取組の一環として、岬町の豊かな自然・人材を活かした環境教育・ボランティア活動を行うことを通し、地域の自然環境の保全と、本校生・地域の人々がともに成長できる「山海人プロジェクト」や「M I S A K Iプロジェクト 2010」を展開してきた。また、2011年からは「イングリッシュ フロンティア ハイスクール」の指定を受け、英語を使って自分の考えを伝えることができるように授業や行事を通して指導している。今年度は、岬町役場とも連携して5月に台湾と、8月にはハンガリーとの国際交流を実施した。

また、近年多くの初任者が赴任してきており、教職経験年数の5年以下の教員が30数名いる。このような年齢層の若い教員集団の特性を生かし、「寄り添う」「粘り強い」教育を実践し、規範意識を向上させ社会に貢献できる人材の育成を図っている。パッケージ研修を通して、初任者をはじめ教職経験年数の少ない教員の授業力の向上とともに、校内研修の全体化に向けた組織づくりに10年目の教員を参画させることでミドルリーダーとしての育成も図る。

(2) 「めざす授業像」とその実現に向けての課題

学校経営計画の「今年度の重点目標」の中で、＜学ぶチカラ＞の育成に向け、「わかる授業」「楽しい授業」を「めざす授業像」とし、生徒が主体的に参加できる授業づくりに取り組む。少人数展開授業の導入やICTの効果的な活用を通して、基礎学力の向上とともに学習意欲をもたせる工夫も取り入れていく。

昨年度実施した授業アンケートの結果によると、めざす授業づくりに対応する「授業がよくわかる」の項目に対する肯定的な回答は73.4%、「授業に積極的に取り組んでいる」には71.0%、「授業に満足している」には72.0%と、それぞれの項目については高い評価が出ている。しかし、それぞれの項目の中で「とてもそう思う」という積極的な肯定的回答については、それぞれ30%程度にとどまり、今後の目標として、その割合が50%を超えるようにする。その目標を達成し、「めざす授業像」を実現するために、パッケージ研修を通して、岬高校における「わかる授業」とは何か、そしてその授業づくりに必要な指導上の留意点について教員全体で考え、実践していく。

(3) 校内全体研修

パッケージ研修の第1回校内全体研修には40名以上の教員が参加し、まず、授業を通して生徒に付けたい力について教員間で共通理解を図るワークショップを行った。グループディスカッションで各グループから出された意見は「人の話をしっかりと聞き、礼儀正しく人と



(ワークショップの様子)

対応できるコミュニケーション能力」と「最後まで諦めない粘り強さと、ここぞという

きに頑張れる資質・能力」の2点に収斂した。ワークショップに引き続き、大阪府教育センターの指導主事より思考力・判断力・表現力を育成する授業の在り方や、自己肯定感や有能感をはぐくむ指導のポイント等について講義があった。



(指導主事による講義)

この講義の中で「わかる授業」とは、やさしい課題を与え教師主導で教え込む授業ではなく、既習の知識や技能の活用を通し、思考力や表現力をはぐくむ授業であることが繰り返し強調された。

後半のワークショップでは、前半のワークショップと指導主事による講義を踏まえ、「わかる」「楽しい」授業づくりや生徒が主体的に参加できる授業づくりに必要な指導上の留意点についてグループディスカッションを行い、次のようなアイデアが出された。



(各グループからの発表)

ア 教材や学習内容への興味・関心を高めるために

- ・学習内容を日常の身近な内容と結びつけることで教材に対する親密性を高めるとともに、現実の生活での活用を理解させる。
- ・ICTや視聴覚教材を効果的に活用する。

イ 学習をスムーズに進めるために

- ・授業の導入時に「本時の目標」を明確にし、何ができたらよいかを生徒に理解させる。
- ・生徒が「聞く」場面、「書く」場面、「考える」場面等を明確に分け、作業をさせながら指示を聞かせることなどは避ける。

ウ 学ぶ楽しさを味わわせるために

- ・生徒に答えを説明させたり考えを発表させたりする機会を設け、それに対して具体的にほめることで、達成感をもたせる。
- ・生徒一人ひとりが自信をもって学習を進められるような机間指導での支援を行う。
- ・生徒どうしの教え合いや学び合いの場面を設ける。

岬高校では今年度すべての初任者を授業者に研究授業を実施する。「めざす授業像」の実現に向け、校内全体研修において教員間で共有化されたこれらの指導上の留意点を今後の授業改善に生かしていくことが期待される。

岬高校 授業観察シート

	項目	コメント
学習環境 (生徒理解)	①机上の整理等、学習に向かう環境が整っている。	
目標の設定 (授業計画)	②授業の導入で「本時の目標」を明確にし、何ができたらよいかを生徒にしっかり理解させている。	
指導内容の適切さ (教材活用)	③学習内容を日常の身近な内容と結びつけることで、教材に対する親密性を高めるとともに、現実の生活での活用を理解させる。	
指導方法の適切さ (授業展開)	④学習内容への興味や関心を高めるために、ICTや視聴覚教材等を効果的に活用している。	
	⑤机間指導(個別指導)で一人ひとりの理解度を(上達度・達成度)等を把握し、適切に支援している。	
	⑥生徒に答えを説明させたり、考えを発表させたりする機会を設けている。	
個の学習の成立 (生徒理解・授業分析)	⑦生徒の活動のよさを具体的にほめて評価していた。	
	⑧授業の振り返りで、生徒の一人ひとりが満足感を味わっていた。	

3 緑風冠高校の取組

(1) 緑風冠高校について

緑風冠高校は、「徹底的な授業改善」を旗印に、教科の枠を超えて「学校教育目標」や「めざす生徒像」の具現化に向け、授業研究を推進している。特に今年度は、基礎学力の充実に努めることや、自ら学び考え、その考えを発信する姿勢をはぐくむとともに、学ぶ意欲を醸成し学習達成の喜びを高める授業づくりを達成目標とし、新たに設置した「授業力向上委員会」を中心に公開授業や研究授業、授業アンケート及びS-T分析法を効果的に活用した授業改善に組織的に取り組んでいる。また、生徒の活動を重視した授業やICTを活用した授業についての研究も推進している。

校内での公開授業では、教員が授業者に対する助言を作成。授業アンケートと合わせ、「授業力向上委員会」で分析の後、授業者にフィードバックし、改善案の策定を求めるなど、「めざす授業像」の実現に向け学校全体で授業改善に取り組んでいる。

(2) 「めざす授業像」とその実現に向けての課題

緑風冠高校の「めざす授業像」である「自ら学び考え、その考えを発信するとともに、学ぶ喜びや学ぶ意欲を高める授業」の達成度を示す指標として、授業アンケートの「集中して先生の話の話を聞き、学習に取り組んでいる」や、「授業に対して前向きに取り組んでいる」、また「授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まった」の3つの項目に注目する。これらの項目に対する肯定的な回答はそれぞれ73.5%、68.3%、63.8%と決して低くはないが、今年度の学校経営計画の中では「授業の満足度を80%以上」を目標としており、その目標を達成するためには、すべての授業において思考力・判断力・表現力の育成に向け言語活動を一層充実させ、生徒一人ひとりに達成感を味あわせる授業づくりが求められる。今後パッケージ研修を通して、言語活動を充実させる授業づくりの在り方や生徒の主体的な活動を重視した授業モデルを提示することで、緑風冠高校の「めざす授業像」を実現していく。

(3) 校内全体研修

緑風冠高校におけるパッケージ研修第1回校内全体研修では、大阪府教育センターの指導主事より、改訂学校教育法で示された学力の3つの要素や、現在の高校生の学力における課題及び、その課題改善に向けた授業づくりの在り方など、学力や授業づくりにおける「ナショナルスタンダード」についての講義があった。

この講義の内容を受けて研修の後半では、「めざす授業像」の実現に向け、参加した教員全員で「緑風冠高校の授業スタンダード」を考えるワークショップを実施した。今年度の達成目標である①自ら学び考え、その考えを発信する姿勢をはぐくむ授業、②学ぶ意欲を醸成するとともに学習達成の喜びを高める授業、を達成するために必要な指導について、小グループに分かれて熱心な討論が行われ、最後の交流では各グループから次のようなアイデアが出された。



(教育センター指導主事による講義)



(熱心な討論の様子)

ア 自ら学び、その考えを発信する姿勢をはぐくむために

- ・指導内容を生活に密着した内容と関連させる。
- ・どこで生徒がつまずくかをあらかじめ予想した上で、ICT等視覚的な教具を効果的に活用し、学習手順を明確に示す。
- ・一人で考える時間や、グループで考えを練り上げる時間、発表する時間を設定することで、生徒の主体的な活動を促す。



(各グループからの発表)

イ 学ぶ意欲を醸成するとともに学習達成の喜びを高めるために

- ・授業の振り返りで、本時の学習内容のまとめを書かせるなど、学習理解度をチェックさせる。
- ・生徒の発表やまとめ等、活動についてよかったところを具体的にほめる。

これらの指導上の留意点は、「めざす授業像」の実現に向けた具体的な手立てであり、教員間での共通理解を深めるためにも「授業観察シート」等に落とし込み、今後の授業改善に生かしていく。

緑風冠高校では、地歴公民科の研究授業に向けて、パッケージ研修を進める。

緑風冠高校 授業観察シート

	項目	コメント
学習環境 (生徒理解)	①机上の整理等、学習に向かう環境が整っている。	
指導内容の適切さ (教材活用)	②指導内容を生活に密着した内容と関連させている。	
指導方法の適切さ (授業展開)	③授業の導入で、復習・確認テストなど短時間の作業を入れることで集中を高めている。	
	④生徒のつまずきを予想した上で、視覚的な教具等を活用し、学習手順を明確に示している。	
	⑤一人で考える時間やグループで考えを練り上げる時間、発表する時間を設定するなど、生徒主体の授業展開になっている。	
	⑥授業の最後に、理解度のチェックをしたり、まとめを書かせたりするなど、授業の振り返りをしている。	
個の学習の成立 (生徒理解・授業分析)	⑦生徒の活動のよさを肯定的に評価していた。	
	⑧1時間の授業の振り返りで、生徒の一人ひとりが満足感を味わっていた。	

4 三島高校の取組

(1) 三島高校について

三島高校には、「進路を切り拓く確かな学力の育成」・「規律・規範の確立と豊かな心の育成」という2つのコンセプトがある。そのコンセプトに基づき「自らが将来の夢を描き、自らその実現に向かって努力する生徒」「社会人として自立し、社会や地域の一員として積極的に貢献しよう」と様々な取組を行っている。

教員の授業力向上については、学力充実委員会が中心となり、授業アンケートを活用した授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力を組織的に向上させることを目標としている。その目標の達成に向けて、授業研究等、授業改善に関する校内研修体制づくりに、「パッケージ研修支援」を活用している。

(2) 「めざす授業像」とその実現に向けての課題

パッケージ研修の開始に先んじて、6月下旬に校内研修会が実施され、ここでは「めざす生徒像」とそれを実現する指導の在り方や授業づくりについて話し合われた。その研修会で教員から出された三島高校の生徒がもつ課題を改善するには、学力向上に向けて授業で思考力と表現力を育成するとともに、学習意欲やチャレンジ精神を高めることが大切であることが共通認識された。

また、学校経営計画では、授業アンケートにおける「授業の理解度」を平成26年度末にはすべての教科で75%以上にするという目標が掲げられており、今後、その目標を達成するため、教員間で共通認識された「めざす授業像」の具現化に向けてさらなる授業改善に取り組む。

この事前の校内研修会が教員の授業改善への意識を高め、続くパッケージ研修へのスムーズな移行に大いに役立ったのは言うまでもない。

(3) 校内全体研修

パッケージ研修での校内全体研修には50名を超える教員が参加し、会議室が熱気で溢れる研修となった。

研修の前半には、大阪府教育センターの指導主事の講義があり、学力に関する各種調査結果から、今の日本の生徒の学力について、基礎的・基本的な知識や技能の習得については一定の成果が見られるものの、思考力や判断力、表現力を問う読解力や記述式の問題には大きな課題が見られるとともに、学習意欲について個人差が広がっていることが指摘された。このような課題を改善するためにも、授業を教師中心から生徒中心に変える必要があり、各教科・科目における具体的な言語活動を提示し、教師が教え込む授業から生徒が学び取る授業へ授業づくりのパラダイムの転換が求められることが強調された。

後半のワークショップでは、事前の校内研修で絞られた「めざす授業像」の実現に向け、「思考力・表現力を高める授業づくり」「学習意欲（チャレンジ精神）を高める授業づくり」というテーマでグループワークを行った。各グループには付箋が配付されており、参加した教員はテーマに沿ってアイデアを次々その付箋に書き込み、熱心に交流するなど、とても盛り上がったワークショップとなった。そこで出てきた主なアイデアは次のとおりである。



(前半の講義の様子)



(付箋を使ったワークショップ)

ア 思考力・表現力を高める授業づくりに向けて

- ・授業の導入で、本時のねらいや目標を明示することで生徒に何をしたらよいかを理解させる。
- ・考えを深めるためにペアやグループでの活動など多様な学習形態をとり、学び合い教え合いの雰囲気をつくる。
- ・生徒に答えを説明させたり、考えを発表させたりする言語活動を活発にさせる。



(各グループからの発表)

イ 学習意欲やチャレンジ精神を高める授業づくりに向けて

- ・学習内容を日常の内容と結び付け、学習したことについて現実の生活での活用を理解させる。
- ・ICTや視聴覚教材などを効果的に活用し、学習内容への興味や関心を高める。
- ・生徒の活動でよいところがあれば、積極的にほめる。

今回の全体研修で出てきたアイデアを指導案に取り入れて事前授業を行い、数学科の研究授業に向けて、パッケージ研修を進めていく。

三島高校 授業観察シート

	項目	コメント
導入時 (生徒理解)	①小テスト等を行うことで、前時の学習内容を確認するとともに、授業への気持ちの切り替えをスムーズに行う。	
指導内容の適切さ (教材活用)	②学習内容を日常の身近な内容と結びつけることで、教材に対する親密性を高めるとともに、現実の生活での活用を理解させる。	
指導方法の適切さ (授業展開)	③授業の導入で、本時のねらいや目標を生徒に明示し、生徒も理解している。	
	④学習内容への興味や関心を高めるために、ICTや視聴覚教材等を効果的に活用している。	
	⑤考えや理解を深めるために、ペアやグループでの活動を取り入れるなど、多様な学習形態をとり、学び合いの雰囲気をつくっている。	
	⑥生徒に答えを説明させたり、考えを発表させたりする機会を設けている。	
個の学習の成立 (生徒理解・授業分析)	⑦生徒の活動のよさを肯定的に評価していた。	
	⑧1時間の授業の振り返りで、生徒の一人ひとりが満足感を味わっていた。	

5 久米田高校の取組

(1) 久米田高校について

久米田高校は、近年伸びつつある進学実績を一層向上させるために、学力学習習慣診断テストやDVD講習、学習合宿など「7つの学力推進施策（レインボープラン）」に取り組み、地域における「久米田ブランド」の確立を通して、将来の地域の核となる人材を輩出する学校をめざしている。

久米田高校では、今年度、すでに校内研修を6回実施しており、授業改善にかかわる研修には市町村教育委員会の指導主事を招くなど、学校力の向上をめざして積極的に様々な取組を推進している。授業改善に向けたPDCAサイクルとして、7月に授業アンケートを実施し、その結果に基づき授業改善の方向性を策定し、12月の授業アンケートで改善状況を点検する。また、学校教育自己診断では、授業満足度の経年変化をみる。

(2) 「めざす授業像」とその実現に向けての課題

久米田高校では、学習指導において、生徒が互いに教え合い学び会える学習環境をつくり、「専門知」から「統合知」へ発展させる（正解が出ていない事柄について探究・議論し、より良い解を探し出す）授業づくりを「めざす授業像」としている。

「めざす授業像」の実現度を示す授業アンケートについて、「授業がわかりやすく楽しく進路実現や日常生活に役立っている」の項目に対する肯定的な回答が平成20年度に25%だったのが、平成23年度には53%と50%を超えた。今年度はこの数値を60%以上にするるとともに、授業アンケートにおける授業満足度を70%にすることを目標としている。

久米田高校は、授業アンケートから明らかになった課題と目標に基づき、パッケージ研修を通して、「めざす授業像」の達成に向け、教え合い学び合う場面の設定の在り方や統合知をはぐくむ思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりの在り方を研究していく。

(3) 校内全体研修

パッケージ研修での第1回校内全体研修の冒頭に、岡村校長より授業改善の必要性について熱いメッセージが伝えられた。続いて大阪府教育センターの指導主事から「『確かな学力』の向上に向けた授業改善」というテーマで講義があった。この講義の中で、学力は①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②その知識・技能を活用してはぐくまれる思考力・判断力・表現力、③学習活動の原動力になる学習意欲、の3つの要素からなること。久米田高校がめざす「教え合い学び合う場面を通して『統合知』をはぐくむ」授業像は、まさに確かな学力を育成する授業と符合することが確認された。



(講義を熱心に聞く教員)



(活発な意見交換)

研修の後半では、①教え合い、学び会える学習環境をつくるために、②思考力・判断力・表現力を向上させるために、という二つのテーマに基づき、めざす授業の実現に必要な指導上の項目について、小グループでワークショップを行った。どのグループも熱心に意見交換がなされ、教員の授業改善に向けた熱意と一体感が強く感じられるワークショップになった。次はその時に出てきた主なアイデアをまとめたものである。

ア 教え合い、学び合える学習環境をつくるために、

- ・自分の考えを深められるように、ペアやグループでの交流の場面を積極的に取り入れる。
- ・間違いは次の成功につながるので、間違いや分からないことも否定的にはとらえない雰囲気をつくる。
- ・日常生活に結びつけた素材を提供し、関心・意欲を高める。

イ 思考力・判断力・表現力を向上させるために、

- ・本時の目標を明確に示すとともに、ICTのようなメディアを活用して意欲が湧くように課題提示を工夫する。
- ・一人で考える時間やグループで考えを深める時間など、思考する時間を十分に設定する。
- ・思考過程が説明できるように、生徒に見通しをもたせる。
- ・授業の最後に、学習した内容を文章でまとめさせる。

「めざす授業像」の実現に向け、校内全体研修において教員間で共通認識をしたこれらの指導上の留意点を今後すべての教科・科目の授業実践に反映させていく。

久米田高校 授業観察シート

	項 目	コメント
目標の設定 (授業計画)	① 授業の導入で、本時のねらいや目標を生徒に明示し、生徒も理解している。	
指導方法の 適切さ (授業展開)	② 授業の最初に、前回の授業内容の振り返りを行い、本時への導入をスムーズに行っている。	
	③ 考えや理解を深めるために、ペアやグループ学習(学び合い)を行うなど多様な学習形態をとっている。	
	④ 生徒に答えを説明させたり、考えを発表させたりする機会を設けている。	
個の学習の 成立 (生徒理解・ 授業分析)	⑤ 生徒の活動や発表等のよさを肯定的に評価し、生徒に自信を与えようとしている。	
	⑥ 1時間の授業の振り返りで、生徒の一人ひとりが満足感を味わっていた。	

6 富田林高校の取組

(1) 富田林高校について

富田林高校のめざす学校像は、地域からの期待に応え、文化を発信するセンターとしての学校である。そして伸び率を大切にしながら進学実績の向上とともに、世界的な視野を持ちながら地域社会での人と人とのつながりを大切に、人材を育てる。具体的にめざす生徒像としては、人間と社会への強い探究心をもち、社会性、リーダー性のある人権感覚のある生徒である。同校は平成 21 年度から平成 23 年度にかけて文部科学省から「学力向上実践研究推進校」として指定を受けて確かな学力を育む取組をしてきた。また、公開研究授業を実施するとともに、全教員が授業の課題を共有化するための「授業改善ノート」を活用した取組を進め、その課題を解決するためにプロジェクトチームを立ち上げて分析を行っている。平成 22 年度にはより高度な授業を展開し、全人格的な発達をめざす「Human Development 専門コース」を立ち上げ、生徒や地域のニーズに応えようとしている。

(2) 充実した授業とその実現に向けての取組

富田林高校では、何よりも授業の充実が大切と考え、授業力向上のための取組として、以下のような項目を掲げ、各項目ごとに70%以上の達成率を求めている。

- 1 わかりやすく、興味をもてる授業内容の研究と実践
- 2 授業アンケートと**授業改善ノート**の活用
- 3 授業力向上実践研究事業についての発表大会の成功
- 4 生徒の自学自習の状況の把握と、自学自習の啓発
- 5 新学習指導要領、P I S A 型の学力指導の研究
- 6 「総合的な学習の時間」参加体験型授業についての研究

以下に平成 22 年度実施した教員への「授業改善ノート」の質問事項と結果集約の一部を載せる。

平成 22 年度授業改善ノート	教科「	」	記載者（	）
A 基本的事項	（1 と思う	2 ややと思う	3 あまり思わない	4 思わない）
1～4のうち、いずれかに○をつけてください。				
①生徒は集中して、授業を受けている。				（ 1 2 3 4 ）
②生徒の宿題・課題の提出は良好である。				（ 1 2 3 4 ）
③生徒は内容に興味をもっている。				（ 1 2 3 4 ）
④生徒は予習・復習をしている。				（ 1 2 3 4 ）
⑤生徒はチャイムとともに席についている。				（ 1 2 3 4 ）
⑥生徒は授業内容の理解ができています。				（ 1 2 3 4 ）
⑦居眠り・私語等をしている生徒はいない。				（ 1 2 3 4 ）
⑧教室の環境は授業に適している。（机間指導、黒板消等、机の上の整理等）				（ 1 2 3 4 ）
⑨教科担当者同士で進度や内容について常に協議している。				（ 1 2 3 4 ）
⑩シラバスに適応した授業内容である。				（ 1 2 3 4 ）

●記述式質問項目

- B どのような授業をめざしていますか。
- C 授業を改善するために学校に望むことを記入してください。
- D 教科の授業をよりよくするためのお考えを記入してください。
- ・いろいろなパターンで、生徒に考えさせる工夫をする。
 - ・小道具や演示実験、視聴覚教材などを用いて生徒の興味を引き、飽きさせない興味を持たせる、集中させる。
 - ・生徒の実態に合わせた教材の工夫・選択。マニュアル（電子化）の充実。教科書・副教材のデジタル化 生徒の興味を持たせる教材の考案。
 - ・小中学校と相互乗り入れして、本校の生徒が小中学生に教える機会をつくる。
- E 全体の授業をよりよくするための方法をご提示下さい。
- ・授業研究の機会を多く持つ。（外部で研修された先生を中心に）教科としての方向性や指導法を確立する。
 - ・教師間の工夫の教え合いの時間を持ち、学年・教科を越えて、様々な先生の授業方法、授業スタイルから学ぶ。
 - ・富田林の生徒に身に付けさせる力について、学校としての方向性を決め、各学年毎の目標を教科ごとに決めて、教員全体に示す。合意がとれば、生徒に対して、方針と到達目標を出来るだけ具体的に示し、生徒アンケートをとり、個々に自己評価する。
 - ・年1回ぐらいの研究授業の推進（但し、他教科の教員も参観できるように教科ごとの曜日を変える）
 - ・他の教師を生徒として模擬授業を行い、意見を出し合う。
 - ・お互いの授業をオープンにし、年中いつでも誰でも見に行けるようにする。

(3) 校内全体研修

このような様々な取組をしてきた富田林高校でパッケージ研修が始まった。研修は3年目を迎える国語科の教員を中心に進め、6月中旬にまず1回目の全体研修を行った。研修の前半では全国の子どもたちを取り巻く状況や課題、これからのめざす授業の在り方等を大阪府教育センターの指導主事が話した。後半は「富田林高校の授業の課題」、そしてその課題を解消すべく「富田林高校がめざす授業」といった観点でワークショップを行った。参加した大勢の教職員は皆、熱心に話し合い、時に笑いが起こるといってもよい雰囲気の中で研修が行われた。

その中から出てきた結論としては一方通行型の授業ではない双方向型の授業により、豊かな人間性と受験に対する学力も同時に付くような授業の在り方をめざすという非常に崇高なものとなった。地域に根ざすとともに世界的な視野をもった人材育成をめざす富田林高校の今後の実践がとても楽しみである。



(熱心に議論する教員)



(各グループからの真摯な発表)

7 教育センター附属高校における授業アンケートの活用の在り方

最後に、大阪府教育センター附属高校（以下附属高校）における授業改善に向けたR(V)－PDCAの確立の中での授業アンケートの活用の在り方について紹介する。

(1) 学校目標 (Plan)

附属高校では「自己実現を叶える学校」づくりに向け、生徒にPISA型学力を身に付けさせるとともに、学習意欲や自分への自信をはぐくむことを目標にしている。その目標を具現化するために、授業においては、①思考力や表現力をはぐくみ、②習熟度別授業やICTの効果的な活用等を通して「できた感」や「やれた感」を味あわせることで、③すべての生徒にとって分かりやすい授業を展開することをめざしている。

(2) 学校目標の具現化に向けた授業実践 (Do)

学校目標の横断化と全体化を図る機能として「学力向上委員会」を設置し、学力向上委員会の主導のもと学校目標に基づき教科目標が設定され、その教科目標にしたがい個人の目標が設定される。

また、学力向上委員会が中心となり、日常的な授業研究の推進に向け、「相互授業見学会」や「校内研究授業」、また、外部への公開も含めた「授業研究会」などを実施している。

(3) 授業実践を通して学校目標の実現度を測る授業アンケート (Check & Action)

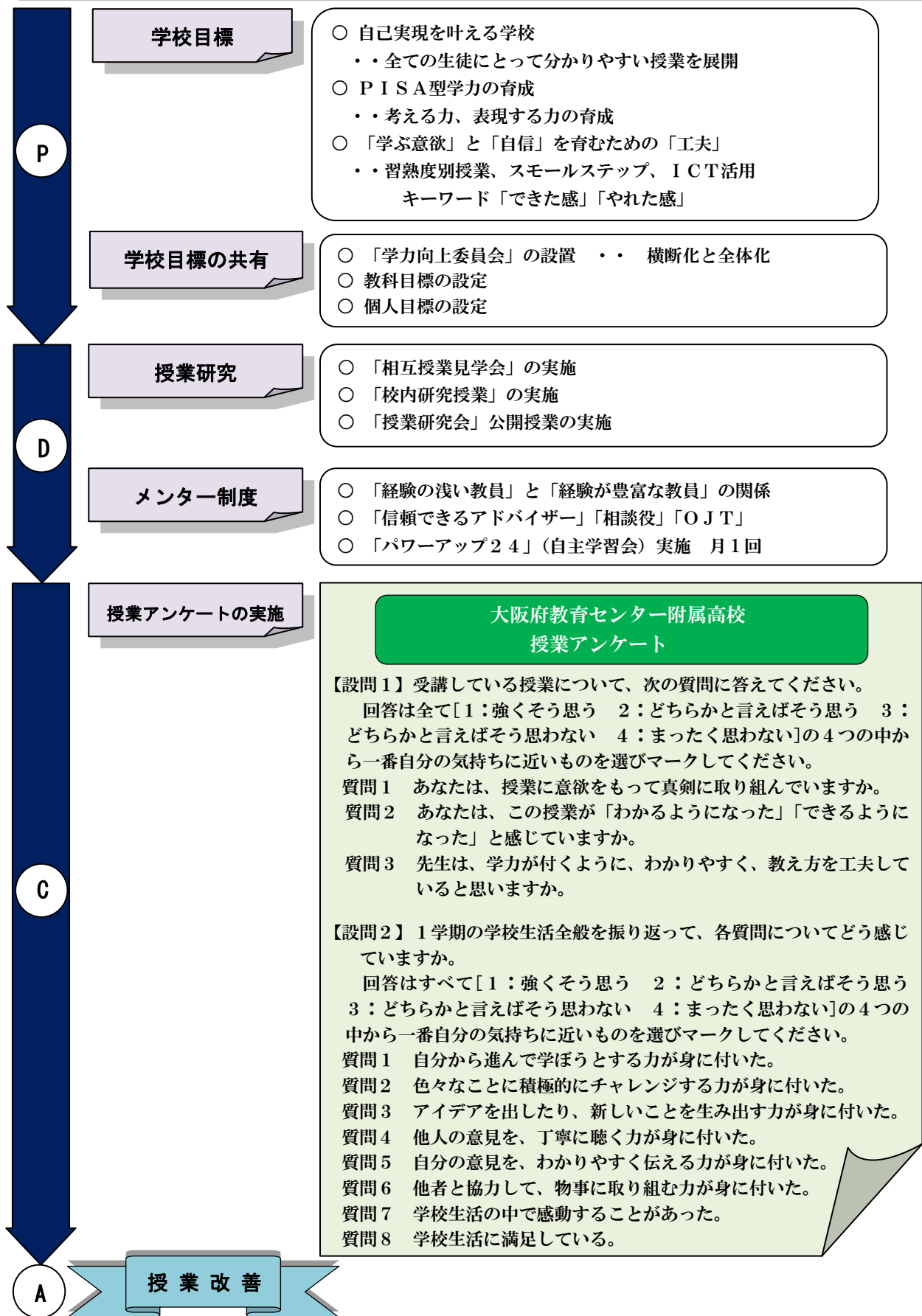
授業改善に向け授業アンケートを効果的に活用するには、授業アンケートの項目が学校目標や「めざす授業像」とリンクしていることが肝要である。そのような授業アンケートを作成し実施することで、日々の授業実践により学校目標がどの程度実現されているかを測るとともに、今後の授業改善に向けて、学校全体で課題を把握することができる。

次は附属高校の学校目標（めざす授業像）と授業アンケート項目の関係性を表したものであり、授業アンケートの果たすべき役割がよくわかるものである。

学校目標 (めざす授業像)	授業アンケート項目
①思考力・表現力を育成する授業	<input type="radio"/> 他人の意見を丁寧に聴く力が身に付いた <input type="radio"/> 自分の意見を分かりやすく伝える力が身に付いた <input type="radio"/> アイデアを出したり新しいことを生み出す力が身に付いた <input type="radio"/> 他者と協力して物事に取り組む力が身に付いた
②「できた感」「やれた感」を味わわせる授業	◆あなたは、この授業が「わかるようになった」「できるようになった」と感じていますか。 ◆あなたは、授業に意欲をもって真剣に取り組んでいますか。 ◆自分から進んで学ぼうとする力が身に付いた。 ◆色々なことに積極的にチャレンジする力が身に付いた。
③すべての生徒にとって分かる授業	<input type="checkbox"/> 先生は、学力が付くように、分かりやすく、教え方を工夫していると思いますか。

*授業アンケートの項目の詳細については、次頁参照。

教科指導におけるR-PDCAの確立に向けた取組 (大阪府教育センター附属高校)

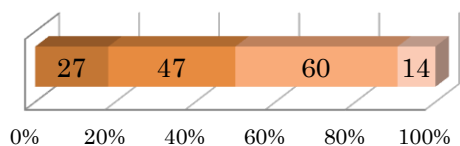


V 平成23年度 授業公開、授業アンケートに係る実施状況調査結果概要

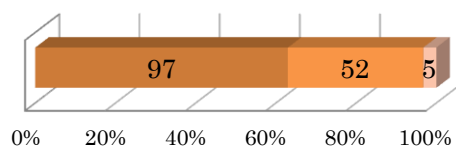
(調査対象 154 校)

■生徒による授業アンケートの実施について (実施校数 154 校/154 校)

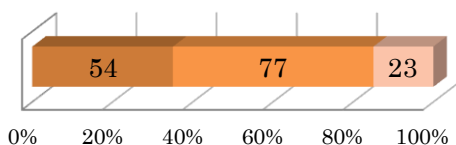
(1) 実施した主体



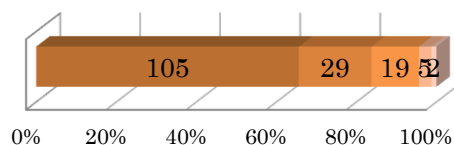
(2) 実施回数



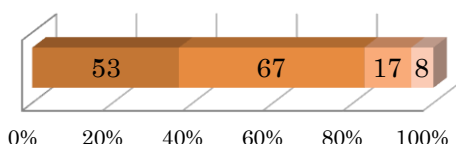
(3) 第1回の実施時期



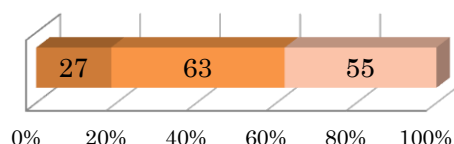
(4) 実施した教員



(5) 共通の評価項目数

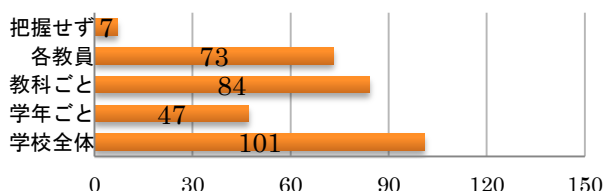


(6) 集計の負担軽減の工夫

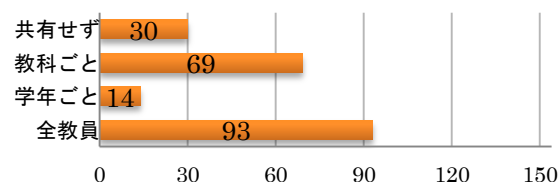


■授業アンケート集計後の取組について (複数回答可)

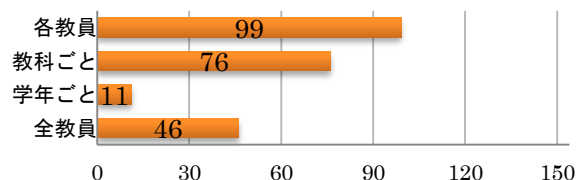
(1) 校長・准校長による結果の把握



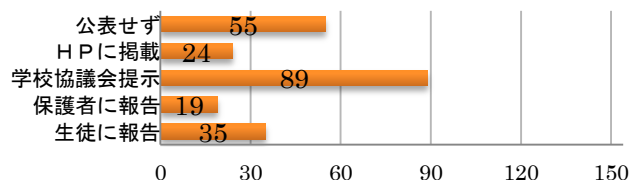
(2) 分析結果の共有



(3) 改善方策の検討



(4) 集計結果・分析結果等の公表



■授業公開の実施について

(1) 研究授業 151 校/154 校 (初任者等 : 96 校 各教科から : 20 校 指導教諭等 : 10 校)

(2) 授業参観(保護者) 138 校/154 校

(参加者計 100 名以上 : 24 校 20 名以上 : 55 校 20 名未満 : 56 校)

(3) 授業公開 (学校協議会委員) 65 校/154 校

VI 授業評価実施に関するQ & A

Q 1 授業評価の目的は何ですか。

- 授業評価は、教員が自らの授業を多様な観点から検証することで、授業改善を図り、生徒にとってより「魅力的な授業」「わかる授業」を実現することを目的として行うものです。

Q 2 授業評価を実施することで、授業は改善するのですか。

- 授業評価は、授業のすぐれた点や課題などを明確にするためのものであり、実施して直ちに授業が改善されるものではありません。各教員が、授業改善に向けた強い意識を持ち、明らかになった課題を解決するための計画目標を立て、継続的に取り組む必要があります。
- また、各教員の取組で終わらせるのではなく、学校全体として、全教員が一致して取り組むことが重要です。全教員が、教科会議や校内研修において、評価結果及び分析された課題を共有し、その課題を解決するための改善方策について検討することが大切です。
- さらに、授業評価は、教員が自ら改善の努力の成果を検証する機会でもあります。自らの取組が一定の成果を得たという達成感を、授業改善に対するさらなる意欲向上につなげていただきたいと考えています。

Q 3 平成 25 年度から、府立高校ではどのような取組をすればよいのですか。

- 以下の 6 点については、各学校が必ず取り組むものとします。【必須課題】
 - (1) 5 月～7 月と 11 月～12 月の年 2 回、生徒による授業アンケートを実施する。
 - (2) すべての教員について、授業を担当する全クラスにおける授業アンケートを実施するとともに、校長・准校長が教員一人ひとりの評価結果を把握する。
 - (3) 各校が行う授業アンケートに、全校・全教員共通の質問項目（授業に対する生徒の意識に関する 2 問）を入れる。
 - (4) 第 1 回授業アンケート後、各教員・各教科・学校全体が、授業アンケートの結果から授業の課題を洗い出し、改善方策を策定する。
 - (5) 第 2 回授業アンケート後、各教員・各教科・学校全体が、授業アンケートの結果を分析、授業の改善状況の検証と改善に向けた取組の評価を実施する。
 - (6) 保護者や学校協議会に、評価結果についての全体的な傾向や課題、課題に対する学校としての改善方策などを示す。なお、(2) については、平成 24 年度からすべての府立高校で取り組むこととしています。
- 以下については、各学校が取組を進めるものとします。【充実課題】
 - (1) 保護者や学校協議会対象の公開授業において、授業アンケートを実施する。
 - (2) 同僚教員による研究授業や授業見学の取組の充実を図る。

Q 4 すべての教員について、担当する全クラスにおける授業アンケートを実施することですが、対象となる教員について教えてください。

- 授業評価は、授業改善を目的に実施するものですから、講師の先生方の授業を含め、すべての授業についてアンケートを実施します。

Q 5 「情報」などの複数名が担当するティーム・ティーチングの授業や、「工業」などの分野ごとに担当教員が一定期間で交代する授業などでは、どうすればよいですか。

- 例えば、2名の教員でティーム・ティーチングを行う場合、授業の形態や授業における各教員の役割の軽重などにより、その授業のアンケート結果を主担当者のみの評価とするのか、2名それぞれの評価とするのかについては、各学校でご判断ください。
- また、担当教員が一定期間で代わる場合は、すべての担当者について、授業アンケートを行うことが原則となりますが、特段の事情がある場合は、高等学校課教務グループにご相談願います。

Q 6 本文中の「標準形」とはどういう意味ですか。その他の方法で実施できないのですか。

- 「標準形」とは、平成 25 年度から実施する府立高校共通の取組について、府教育委員会が望ましいと考えている授業アンケートの実施方法です。したがって、ほぼすべての学校にこの形で取り組んでいただくことを想定しています。
- 「標準形」と示しているものには次の 2 点があります。

(1) 担任がクラスごとに、HRなどで一斉に全履修科目分の授業アンケートを実施する。

<標準形以外の取組について>

これまでの各校での取組において、個々の教員によるアンケートがすでに組織的、継続的に実施され、それ相当の成果を挙げており、かつ、今後、HRなどで一斉に実施する場合と同等のパフォーマンスを担保できると府教育委員会が判断する場合には、個々の教員が授業においてアンケートを実施するなど、これまでの学校独自の方法を続けていただくことにします。なお、その場合は、現在開発中の「授業アンケート分析システム」(仮称)を活用していただくことはできなくなります。

(2) 授業アンケートの質問項目は、生徒自身の授業での取組に関する質問(2問)、5つの評価軸に基づく質問(5問)、授業に対する生徒の意識に関する質問(2問)の計9問とする。その中で、生徒自身の授業での取組に関する質問と、5つの評価軸に基づく質問は、生徒の実態及び教科・科目の特性に応じて、各学校で質問項目を設定することとし、授業に対する生徒の意識に関する質問は、全校・全教員が実施する共通の質問項目とする。

<標準形以外の取組について>

標準形の9問をミニマム(最低限必要な項目)としており、教員・教科ごとに独自に質問する必要がある場合は、HRなどで一斉に実施するのは別にアンケートを実施してください。

Q 7 教科会議や職員会議での結果の共有は、どのようにすればよいのですか。

- 教科会議では、科目ごとの集計結果などにより、教科としての共通の課題は何かを分析し、改善方策を策定することが求められます。また、職員会議では、各教科会議での議論（課題や改善方策）を共有するとともに、学校全体としての課題を洗い出し、めざす授業像を確認することが重要です。
- 「授業アンケート分析システム」では、科目ごとの集計や教科ごとの集計の出力が可能ですので、教員の同意のもとに結果を共有いただければと考えています。また、各校で必要に応じて集計票を加工するなど、より互いに意見を交わし、高めあえる環境づくりに努めていただきたい。

Q 8 「授業振り返りシート」を必ず活用しなければならないのですか。

- 「授業振り返りシート」は、教員一人ひとりが第1回の授業アンケート結果をもとに、課題を洗い出し、改善方策を策定するとともに、第2回の授業アンケート結果では、授業改善の状況を検証し、自己評価を行うために活用するものです。必要に応じて、このまま使っていただくか、参考にしていただければと考えています。

Q 9 「授業アンケート分析システム」の使用方法がわからない場合はどうすればよいですか。

- 「授業アンケート分析システム」については、完成次第、使用マニュアルとあわせて全府立高校に配付します。使用マニュアルを見てもわからない場合は、高等学校課教務グループまで、お問い合わせください。

Q 10 授業評価や授業改善の取組状況について、教育委員会に報告する必要はありますか。

- 授業公開や生徒による授業アンケートについて、各校における実施方法や実施内容、さらに実施の成果や課題などを把握することを目的に、これまでどおり、各年度末に「授業公開、授業アンケートに係る実施状況調査」を実施します。
- 教員個々の集計結果等の提出を求めることはありませんが、各学校が作成したアンケート用紙と学校全体の集計については添付していただく予定です。

Ⅶ おわりに

生徒による授業アンケートを実施するにあたっては、その目的が、教員の人物や人格を評価することではなく、アンケート結果を通して教員が授業を改善することにあるということが、教員と生徒の双方において共有されていることが重要となる。

生徒が、授業アンケートの目的を正しく理解することで、より責任をもって授業の評価に取り組むことができるようになり、評価の信頼性を高めることができる。また、教員がアンケート結果を踏まえ授業を改善しようという姿勢や熱意を強く持つことで、生徒からの信頼感が増し、自ずと評価の信頼性と有用性が向上する。

現在開発中の「授業アンケート分析システム」により、授業アンケート結果を数値化・グラフ化し、教員一人ひとりの評価結果を「見える化」することは容易にできるが、授業評価の目的は単にアンケートの結果を出すことではない。各学校においては、授業評価の実施が有益なものとなるよう、評価結果を活用した、さらなる授業改善に向けた取組を進めていただきたい。

授業の改善は教員一人ひとりの努力だけで達成できるものではない。教員の努力をサポートする体制を整備することが、いま、学校に求められている。

アンケートを実施して、仮に他の項目よりも低いところがあれば、それが、そのまま改善課題だと意識され、評価結果が授業改善の明確な指針となる。例えば、「声が小さい」、「授業の進度が速すぎる」などの課題が判明すれば、それが明日の授業の改善課題となるのである。

しかし、自覚してすぐ改善される場合もあろうが、「分かっているが、どう改善すればいいのかわからない」というような場合もある。そのような状況の中では、第三者の客観的な見方やアドバイスがきわめて有効になってくる。

学校全体で授業改善を試みておれば、多様な立場、様々な角度から、教員一人ひとりの授業を検証することができ、学校としての「めざすべき授業」がより近くに見えてくる。

「はしがき」でも述べたが、各学校において、本ガイドラインを参考として授業評価の取組を推進し充実させることで、生徒にとってより「魅力的な授業」「わかる授業」が実現されることを期待している。

最後に、本ガイドライン【Ⅱ】の作成段階において、「授業評価はその先生の授業の良し悪しを数値化することが目的ではない。授業を分析し、課題を洗い出すためのものである。ぜひ、よい授業をつくるための『授業評価』にしてほしい。」「授業評価を実施することによって追いつめられていると感じる教員もいるだろう。『評価が低かった』で終わらせるのではなく、その教員に対する支援体制を構築することが重要である。」など、貴重な助言をいただいた大阪教育大学教育学部の森田英嗣教授には深く感謝したい。



大阪「こころの再生」府民運動
～大阪あったかプロジェクト～



教育委員会事務局教育振興室 平成 25 年 1 月発行
〒540-8571 大阪市中央区大手前二丁目 TEL06(6941)0351
ホームページアドレス <http://www.pref.osaka.lg.jp/kyoisomu/data/demand.html>
電子メール kyoikushinko-g20@sbox.pref.osaka.lg.jp